## ■ 大工技能学科

### １年次

| | | 科　目　名 | 開講期 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 前期 | 後期 |
| 専門科目 | 必修科目 | 設計製図Ⅰ | ○ | ○ |
| | | 建築製図Ⅰ | ○ | ○ |
| | | 建築技能実習Ⅰ | ○ | ○ |
| | | 建築技能実習Ⅱ | ○ | ○ |
| | | 建築技能実習Ⅲ | ○ | ○ |
| | | 木構造設計製図 | ○ | ○ |
| | | | | |
| 基幹科目 | | 建築計画Ⅰ | ○ | |
| | | 建築計画Ⅱ | | ○ |
| | | 建築史Ⅰ | ○ | |
| | | 建築史Ⅱ | | ○ |
| | | 建築法規Ⅰ | ○ | |
| | | 建築法規Ⅱ | | ○ |
| | | 建築一般構造Ⅰ | ○ | |
| | | 建築一般構造Ⅱ | | ○ |
| | | 構造力学Ⅰ | ○ | |
| | | 構造力学Ⅱ | | ○ |
| | | 情報処理論 | ○ | |
| | | 建築施工法Ⅰ | | ○ |
| 特別 | | キャリアデザインⅠ | ○ | ○ |

### ２年次

| | | 科　目　名 | 開講期 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 前期 | 後期 |
| 専門科目 | 必修科目 | 設計製図Ⅱ | ○ | ○ |
| | | 建築製図Ⅱ | ○ | ○ |
| | | 建築技能実習Ⅳ | ○ | ○ |
| | | 建築技能実習Ⅴ | ○ | ○ |
| | | 建築技能実習Ⅵ | ○ | ○ |
| | | 卒業制作 | | ○ |
| | 選択科目 | ＣＡＤ設計製図Ⅰ | ○ | |
| | | ＣＡＤ設計製図Ⅱ | | ○ |
| 基幹科目 | | 建築環境工学 | ○ | |
| | | 建築設備 | | ○ |
| | | 建築材料学Ⅰ | ○ | |
| | | 建築材料学Ⅱ | | ○ |
| | | 建築施工法Ⅱ | ○ | |
| | | 建築積算 | | ○ |
| | | | | |
| 特別 | | キャリアデザインⅡ | ○ | ○ |

| 科目名： 設計製図Ⅰ | 【実習】 |
|---|---|
| 英文名： Architectural Plan, Design and Drawing Ⅰ | |
| 担当者： | 中平勝、荒井圭一郎、永井智樹<br>本科目は、建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築設計製図の一連の流れである、問題の認識　その解決　そして伝達のための表現といった各課程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく課程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。

第 1 回 ： 基礎トレ①…プレゼンテーショントレーニング「推し物語」
第 2 回 ： 基礎トレ①…プレゼンテーショントレーニング「推し物語」発表会
第 3 回 ： 基礎トレ②…プレゼンテーショントレーニング「大工道具」(チーム課題)課題説明・情報収集
第 4 回 ： 基礎トレ②…プレゼンテーショントレーニング「大工道具」作業項目抽出・工程作成・プレゼンシート作成
第 5 回 ： 基礎トレ②…プレゼンテーショントレーニング「大工道具」発表会
第 6 回 ： 第１課題　空間模型を図面にしてみよう…模型作成
第 7 回 ： 第１課題　空間模型を図面にしてみよう…図面作成
第 8 回 ： 第１課題　空間模型を図面にしてみよう…図面チェック
第 9 回 ： 第２課題　図法・表現いろいろ…アクソメトリック作成
第 10 回 ： 第２課題　図法・表現いろいろ…彩色の表現やテクニックを知る（色鉛筆を使って）
第 11 回 ： 第２課題　図法・表現いろいろ…マチ歩き課題（建築の見方を知り、視野を広げ、表現方法を知る）
第 12 回 ： 第３課題　光の箱をつくろう…課題説明・光の建築スライド
第 13 回 ： 第３課題　光の箱をつくろう…光の箱模型作成
第 14 回 ： 第３課題　光の箱をつくろう…光の箱模型に光を通す作業（穴あけ）・撮影会
第 15 回 ： 第３課題　光の箱をつくろう…発表・講評会
第 16 回 ： 第４課題　木造建築に触れよう学ぼう（夏季課題）（建築リサーチ課題）…課題説明
第 17 回 ： 第５課題　THE　TENMA　TOILET…課題説明・小さな建築スライド
第 18 回 ： 第５課題　THE　TENMA　TOILET…ボリューム検討・配置検討
第 19 回 ： 第５課題　THE　TENMA　TOILET…エスキス①空間構成と機能を考える
第 20 回 ： 第５課題　THE　TENMA　TOILET…エスキス②細部を考える
第 21 回 ： 第５課題　THE　TENMA　TOILET…プレゼンシート作成
第 22 回 ： 第５課題　THE　TENMA　TOILET…発表・講評
第 23 回 ： 第６課題　すまいの設計…課題説明・環境の読み方レクチャー
第 24 回 ： 第６課題　すまいの設計…心地よさイメージ収集
第 25 回 ： 第６課題　すまいの設計…敷地環境模型作成・提出
第 26 回 ： 第６課題　すまいの設計…ヴォリューム模型作成・ゾーニングプラン作成
第 27 回 ： 第６課題　すまいの設計…ゾーニング案・エスキス模型①を用いて個別面談→エスキス案②作成
第 28 回 ： 第６課題　すまいの設計…エスキス案②を用いて個別面談→最終模型用図面作成
第 29 回 ： 第６課題　すまいの設計…最終模型提出
第 30 回 ： 第６課題　すまいの設計…最終プレゼンシート中間チェック
第 31 回 ： 第６課題　すまいの設計…最終プレゼンシート提出　発表・講評
第 32 回 ： 第６課題　すまいの設計…学年全体　発表・講評

■教科書

コンパクト建築設計資料集成＜住居＞（丸善出版）

■参考文献

建築ＭＡＰ大阪/神戸（TOTO出版）

■到達目標

建築実務等に必要な建築設計、企画、提案能力を身につけます。

■試験方法

試験は行わない 。

■成績評価基準

提出された作品の、クオリティ、設定条件の遵守度、発表の出来を総合的に評価する。

■受講生へのメッセージ

設計製図Ⅰは学生一人一人の個性と創造力を思い切り伸ばす時間である。あらゆる既成概念を一端捨てて、原点からの発想、構築、表現に挑戦すること。“正解”はあなたの中にのみある。

| 科目名： 建築製図Ⅰ | 【実習】 |
|---|---|
| 英文名： Architectural Drafting and the Development of its Skill Ⅰ | |
| 担当者： | 齊木勝代、上野耕市<br>本科目は、建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各タームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、製図規則の理解からスタートし、平屋建て住宅から２階建て住宅まで、課せられた条件のもとで計画・設計を行い建築一般図面の作図までを行う。後期については、木造２階建住宅及びRC造公共建築物の建築設計製図について学ぶ。また、真剣にこれらと向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力なども同時に養成する。

第 １ 回 ： 第１ターム「製図の基本規則①」･･･ガイダンス、製図道具の使い方、線と文字の意味理解と習熟　その１
第 ２ 回 ： 第１ターム「製図の基本規則②」･･･線と文字の意味理解と習熟　その２
第 ３ 回 ： 第１ターム「製図の基本規則③」･･･立体と空間の理解と習熟
第 ４ 回 ： 第２ターム「各種建築記号の理解」　･･･建築物と各図との関連理解　その１
第 ５ 回 ： 第２ターム「平面図・立面図・断面図の理解①」･･･建築物と各図との関連理解　その２
第 ６ 回 ： 第２ターム「平面図・立面図・断面図の理解②」･･･建築物と各図との関連理解　その３
第 ７ 回 ： 第２ターム「平面図・立面図・断面図の理解③」･･･建築物と各図との関連理解　その４
第 ８ 回 ： 第２ターム「平面図・立面図・断面図の理解④」･･･建築物と各図との関連理解　その５
第 ９ 回 ： 第３ターム「建築設計製図課題①」･･･木造平屋建住宅　計画・設計　その１
第 10 回 ： 第３ターム「建築設計製図課題②」･･･木造平屋建住宅　一般図の作図　その１
第 11 回 ： 第３ターム「建築設計製図課題③」･･･木造平屋建住宅　一般図の作図　その２
第 12 回 ： 前期補習作業・前期製図試験「傾向と対策」
第 13 回 ： 前期製図試験　その１（前期復習課題）
第 14 回 ： 前期製図試験　その２（前期復習課題）
第 15 回 ： 夏期ターム「木造住宅、RC造住宅　①」･･･構造の異なる住宅の設計　構造と設計の理解
第 16 回 ： 夏期ターム「木造住宅、RC造住宅　②」･･･構造の異なる住宅の製図　構造と製図規則の理解
第 17 回 ： 課題提出、前期講評
第 18 回 ： 第４ターム「建築設計製図課題①」･･･木造平屋建住宅　平面詳細図　その１
第 19 回 ： 第４ターム「建築設計製図課題②」･･･木造平屋建住宅　平面詳細図　その２
第 20 回 ： 第４ターム「建築設計製図課題③」･･･木造平屋建住宅　矩計の理解
第 21 回 ： 第４ターム「建築設計製図課題④」･･･木造平屋建住宅　矩計と各伏図の関係
第 22 回 ： 第４ターム「建築設計製図課題⑤」･･･木造平屋建住宅　構造図と矩計図
第 23 回 ： 第５ターム「建築設計製図課題①」･･･木造平屋建住宅　展開図　その１
第 24 回 ： 第５ターム「建築設計製図課題②」･･･木造平屋建住宅　展開図　その２
第 25 回 ： 第６ターム「建築設計製図課題①」･･･木造２階建住宅　一般図の作図　その１
第 26 回 ： 第６ターム「建築設計製図課題②」･･･木造２階建住宅　一般図の作図　その２
第 27 回 ： 第６ターム「建築設計製図課題③」･･･木造２階建住宅　構造図と矩計図
第 28 回 ： 冬期ターム「建築設計製図課題①」･･･木造平屋建住宅　構造図（床伏図）　その１
第 29 回 ： 冬期ターム「建築設計製図課題②」･･･木造平屋建住宅　構造図（軸組図）　その２
第 30 回 ： 冬期ターム「建築設計製図課題③」･･･木造平屋建住宅　構造図（軸組模型）　その３
第 31 回 ： 冬期課題提出・学年末製図試験「傾向と対策」
第 32 回 ： 学年末製図試験（与条件の読み取りから作図まで総合課題）

■教科書

建築製図 基本の基本（学芸出版）

■参考文献

建築構法（市ヶ谷出版）、必携 建築資料（ビジュアルハンドブック）（実教出版）

■到達目標

木造建築物の設計・製図能力を身につける。

■試験方法

定期試験（実技）を行う。

■成績評価基準

定期製図試験60%、通常課題(夏･冬課題含)25%、平常点(受講姿勢)15%を原則とする。

■受講生へのメッセージ

・前期・後期とも、出席率が80%未満の者は原則として定期試験の受験資格が無い。
・病欠や忌引きのとき、または不慮の事故等の際は必ずすみやかに担当者まで連絡し、指示を受けて下さい。

| 科目名： 建築技能実習Ⅰ | 【実習】 |
|---|---|
| 英文名： Skill Training of Workman Ⅰ | |
| 担当者： | 左海晃志、竹内優二、永田薫<br>本科目は、建築設計実務（大工技能）を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になっていくものである。実際その技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では木造建築の現場技能者(1級建築大工技能士)から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。（実務業務に即したカリキュラム構成）特に手工具を中心とした道具の扱い・メンテナンスには多くの時間を掛け、“職人気質”を実感できる実習を行い、現場で活躍できる人材教育に重心を置き、建築技能に関するさまざまな知識も積極的に盛り込み、様々な技能知識を実技演習から学ぶことを目的とする。

第 1 回 ： 科目ガイダンス…学科進行に関する説明（実技実習、成績評価施設の説明など）①
第 2 回 ： 技能概論…建築空間・人・技・鍛錬・安全衛生など①
第 3 回 ： 建築材料…木材の性質①
第 4 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…道具箱の製作①
第 5 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鋸①）
第 6 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鑿①）
第 7 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鑿④）
第 8 回 ： 技能検定１…技能テスト①(枘穴)
第 9 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鉋①）
第 10 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鉋④）
第 11 回 ： 墨付け…墨付けの実際①（墨つぼ・墨差し）
第 12 回 ： 学外実習・建築見学(兵庫県三木市・金物工場見学、竹中大工道具館見学他)
第 13 回 ： 加工実習…継手①（切断・鉋・穴掘りなど）
第 14 回 ： 加工実習…継手④（切断・鉋・穴掘りなど）
第 15 回 ： 加工実習…継手⑦（切断・鉋・穴掘りなど）
第 16 回 ： 技能検定２…技能テスト②(蟻継)
第 17 回 ： 加工実習…継手・仕口の応用①（切断・鉋・穴掘りなど）
第 18 回 ： 加工実習…継手・仕口の応用④（切断・鉋・穴掘りなど）
第 19 回 ： 加工実習…継手・仕口の応用⑦（切断・鉋・穴掘りなど）
第 20 回 ： 技能検定３…技能テスト③(鎌継)
第 21 回 ： 学外実習・建築見学②(鳥取県：投入堂、石谷家住宅他)
第 22 回 ： 学外実習・建築見学②(鳥取県：投入堂、石谷家住宅他)
第 23 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)①
第 24 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)④
第 25 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)⑦
第 26 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)⑩
第 27 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)①
第 28 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)④
第 29 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑦
第 30 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑩
第 31 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑬
第 32 回 ： １年次総括…作品好評会・技能総括・見学会など

■教科書

大工技能を学ぶⅠ

■参考文献

特になし

■到達目標

現役の大工技術者(1級建築大工技能士)から実践的な作業指導を受けると共に、その技術能力を身に付ける。

■試験方法

加工課題として複数回の実技試験(技能検定)と、三級建築大工技能士学科試験レベルの筆記試験を行う。

■成績評価基準

通常課題評価60%、技能検定評価20%、作業姿勢20%

■受講生へのメッセージ

道具の手入れを含めた作業に対する前向きな姿勢と意識があれば、少しずつですが技術は向上します。
課題、そして指導者と正面から向き合って、取組む姿勢を含めた建築大工技能を身に付けましょう。

# 科目名： 建築技能実習Ⅱ 【実習】

英文名： Skill Training of Workman Ⅱ

| 担当者： | 左海晃志、永田薫 |
|---|---|
| | 本科目は、建築設計実務（大工技能）を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になっていくものである。実際その技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では本物の現場技能者(1級建築大工技能士)から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。（実務業務に即したカリキュラム構成）特に手工具を中心とした道具の扱い・メンテナンスには多くの時間を掛け、“職人気質”を実感できる実習を行い、現場で活躍できる人材教育に重心を置き、建築技能に関するさまざまな知識も積極的に盛り込み、様々な技能知識を実技演習から学ぶことを目的とする。

第 1 回 ： 科目ガイダンス…学科進行に関する説明（実技実習、成績評価施設の説明など）②
第 2 回 ： 技能概論…建築空間・人・技・鍛錬・安全衛生など②
第 3 回 ： 建築材料…木材の性質②
第 4 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…道具箱の製作②
第 5 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鋸②）
第 6 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鑿②）
第 7 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鑿⑤）
第 8 回 ： 技能検定１…技能テスト①
第 9 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鉋②）
第 10 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鉋⑤）
第 11 回 ： 墨付け…墨付けの実際②（墨つぼ・墨差し）
第 12 回 ： 学外実習・建築見学①(枘穴)
第 13 回 ： 加工実習…継手②（切断・鉋・穴掘りなど）
第 14 回 ： 加工実習…継手⑤（切断・鉋・穴掘りなど）
第 15 回 ： 加工実習…継手⑧（切断・鉋・穴掘りなど）
第 16 回 ： 技能検定２…技能テスト②(蟻継)
第 17 回 ： 加工実習…継手・仕口の応用②（切断・鉋・穴掘りなど）
第 18 回 ： 加工実習…継手・仕口の応用⑤（切断・鉋・穴掘りなど）
第 19 回 ： 加工実習…継手・仕口の応用⑧（切断・鉋・穴掘りなど）
第 20 回 ： 技能検定３…技能テスト③(鎌継)
第 21 回 ： 学外実習・建築見学②(鳥取県：投入堂、石谷家住宅他)
第 22 回 ： 学外実習・建築見学②(鳥取県：投入堂、石谷家住宅他)
第 23 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)②
第 24 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)⑤
第 25 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)⑧
第 26 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)⑪
第 27 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)②
第 28 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑤
第 29 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑧
第 30 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑪
第 31 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑭
第 32 回 ： １年次総括…作品好評会・技能総括・見学会など

■教科書

大工技能を学ぶⅠ

■参考文献

特になし

■到達目標

現役の大工技術者(1級建築大工技能士)から実践的な作業指導を受けると共に、その技術能力を身に付ける。

■試験方法

加工課題として複数回の実技試験(技能検定)と、三級建築大工技能士学科試験レベルの筆記試験を行う。

■成績評価基準

通常課題評価60%、技能検定評価20%、作業姿勢20%

■受講生へのメッセージ

道具の手入れを含めた作業に対する前向きな姿勢と意識があれば、少しずつですが技術は向上します。
課題、そして指導者と正面から向き合って、取組む姿勢を含めた建築大工技能を身に付けましょう。

| 科目名： 建築技能実習Ⅲ | 【実習】 |
|---|---|
| 英文名： Skill Training of Workman Ⅲ | |
| 担当者： | 左海晃志、竹内優二、永田薫<br>本科目は、建築設計実務（大工技能）を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になっていくものである。実際その技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では本物の現場技能者(1級建築大工技能士)から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。（実務業務に即したカリキュラム構成）特に手工具を中心とした道具の扱い・メンテナンスには多くの時間を掛け、“職人気質”を実感できる実習を行い、現場で活躍できる人材教育に重心を置き、建築技能に関するさまざまな知識も積極的に盛り込み、様々な技能知識を実技演習から学ぶことを目的とする。

第 1 回 ： 科目ガイダンス…学科進行に関する説明（実技実習、成績評価施設の説明など）③
第 2 回 ： 技能概論…建築空間・人・技・鍛錬・安全衛生など③
第 3 回 ： 建築材料…木材の性質③
第 4 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…道具箱の製作③
第 5 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鋸③）
第 6 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鑿③）
第 7 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鑿⑥）
第 8 回 ： 技能検定１…技能テスト①
第 9 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鉋③）
第 10 回 ： 大工道具…道具の機能・手入れ…手工具の扱い（鉋⑥）
第 11 回 ： 墨付け…墨付けの実際③（墨つぼ・墨差し）
第 12 回 ： 学外実習・建築見学①(枘穴)
第 13 回 ： 加工実習…継手②（切断・鉋・穴掘りなど）
第 14 回 ： 加工実習…継手⑤（切断・鉋・穴掘りなど）
第 15 回 ： 加工実習…継手⑧（切断・鉋・穴掘りなど）
第 16 回 ： 技能検定２…技能テスト②(蟻継)
第 17 回 ： 加工実習…継手・仕口の応用③（切断・鉋・穴掘りなど）
第 18 回 ： 加工実習…継手・仕口の応用⑥（切断・鉋・穴掘りなど）
第 19 回 ： 加工実習…継手・仕口の応用⑨（切断・鉋・穴掘りなど）
第 20 回 ： 技能検定３…技能テスト③(鎌継)
第 21 回 ： 学外実習・建築見学②(鳥取県：投入堂、石谷家住宅他)
第 22 回 ： 学外実習・建築見学②(鳥取県：投入堂、石谷家住宅他)
第 23 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)③
第 24 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)⑥
第 25 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)⑨
第 26 回 ： 実施工作〈1〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木製のテーブル又はベンチ)⑫
第 27 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)③
第 28 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑥
第 29 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑨
第 30 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑫
第 31 回 ： 実施工作〈2〉…技能演習。教わった技能で実際にモノづくり(木造の小屋)⑮
第 32 回 ： １年次総括…作品好評会・技能総括・見学会など

■教科書

大工技能を学ぶⅠ

■参考文献

特になし

■到達目標

現役の大工技術者(1級建築大工技能士)から実践的な作業指導を受けると共に、その技術能力を身に付ける。

■試験方法

三級大工技能士学科試験レベルの筆記試験を行う。

■成績評価基準

通常課題評価60%、技能検定評価20%、作業姿勢20%

■受講生へのメッセージ

道具の手入れを含めた作業に対する前向きな姿勢と意識があれば、少しずつですが技術は向上します。
課題、そして指導者と正面から向き合って、取組む姿勢を含めた建築大工技能を身に付けましょう。

# 科目名： 木構造設計製図 【実習】

英文名： Drafting of Wooden Construction

| 担当者： | 左海晃志、竹内優二、松本直樹<br>本科目は、建築設計実務（木造）を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |
|---|---|

| 開講年次： １年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

木構造といっても、その実態は非常に多岐に渡っているのが現状である。本講座では、その様な木構造の中でも、いわゆる木造軸組構法を、伝統的な軸組みを視野に入れながら捉えていく。具体的には、大工技能学科の主軸科目である技能実習を側面からサポートし、実物と図面との相互関係に重点を置いた製図実習を行う。平面、断面　立面の基本概念の修得に始まり、簡単な木造平屋建ての軸組みの検討と図面化、与えられた住宅計画案からの架構の検討、図面化、模型化、軸組模型の強度実験等の作業を通じて、木造軸組構法の木組の要領を体得する。

第 1 回 ： 第1課題「基礎図面練習１」…大工道具である「さしがね」を使った線引き練習。「陸(水平)」「立水(垂直)」等大工用語の解説
第 2 回 ： 第1課題「基礎図面練習１」…「さしがね」を使い勾配図(直角三角形)等を描く①
第 3 回 ： 第1課題「基礎図面練習１」…「さしがね」を使い勾配図(直角三角形)等を描く②
第 4 回 ： 第1課題「基礎図面練習１」…「さしがね」を使い勾配図(直角三角形)等を描く③。まとめとして授業内検定
第 5 回 ： 第2課題「基礎図面練習２」…実測図の作製①　建築技能実習で作製する様々な継手・仕口模型を実測し図面化
第 6 回 ： 第2課題「基礎図面練習２」…実測図の作製②　建築技能実習で作製する様々な継手・仕口模型を実測し図面化
第 7 回 ： 第2課題「基礎図面練習２」…実測図の作製③　建築技能実習で作製する様々な継手・仕口模型を実測し図面化
第 8 回 ： 第2課題「基礎図面練習２」…実測図の作製④　建築技能実習で作製する様々な継手・仕口模型を実測し図面化
第 9 回 ： 第3課題「基礎図面練習３」…実測図の作製⑤　後期の建築技能実習で作製する骨組みの実測し図面化
第 10 回 ： 第3課題「基礎図面練習３」…実測図の作製⑥　後期の建築技能実習で作製する骨組みの実測し図面化
第 11 回 ： 第3課題「基礎図面練習３」…実測図の作製⑦　後期の建築技能実習で作製する骨組みの実測し図面化
第 12 回 ： 第3課題「基礎図面練習３」…実測図の作製⑧　後期の建築技能実習で作製する骨組みの実測し図面化
第 13 回 ： 第4課題「木造軸組模型」…第3課題の実測図をもとに軸組模型作製①
第 14 回 ： 第4課題「木造軸組模型」…第3課題の実測図をもとに軸組模型作製②
第 15 回 ： 第4課題「木造軸組模型」…第3課題の実測図をもとに軸組模型作製③
第 16 回 ： 第4課題「木造軸組模型」…第3課題の実測図をもとに軸組模型作製③
第 17 回 ： 前期補講日…未完成作品の補講
第 18 回 ： 第5課題「２階建住宅の構造図１」…木造２階建住宅の伏図①　(1階床伏図、2階床伏図、小屋伏図)
第 19 回 ： 第5課題「２階建住宅の構造図１」…木造２階建住宅の伏図②　(1階床伏図、2階床伏図、小屋伏図)
第 20 回 ： 第5課題「２階建住宅の構造図１」…木造２階建住宅の伏図③　(1階床伏図、2階床伏図、小屋伏図)
第 21 回 ： 第6課題「２階建住宅の構造図２」…木造２階建住宅の軸組図①
第 22 回 ： 第6課題「２階建住宅の構造図２」…木造２階建住宅の軸組図②
第 23 回 ： 第6課題「２階建住宅の構造図２」…木造２階建住宅の軸組図③
第 24 回 ： 第6課題「２階建住宅の構造図２」…木造２階建住宅の軸組図④
第 25 回 ： 第7課題「２階建住宅の軸組模型」…模型作成①
第 26 回 ： 第7課題「２階建住宅の軸組模型」…模型作成②
第 27 回 ： 第7課題「２階建住宅の軸組模型」…模型作成③
第 28 回 ： 第8課題「技能実習課題制作図1」…課題原寸図面作製①(追っ掛け大栓継)
第 29 回 ： 第8課題「技能実習課題制作図1」…課題原寸図面作製②(追っ掛け大栓継)
第 30 回 ： 第9課題「技能実習課題制作図2」…課題原寸図面作製①　(しゃち継ぎ)
第 31 回 ： 第9課題「技能実習課題制作図2」…課題原寸図面作製②　(しゃち継ぎ)
第 32 回 ： 第9課題「技能実習課題制作図2」…課題原寸図面作製③　(しゃち継ぎ)

■教科書

プリント

■参考文献

建築製図　基本の基本

■到達目標

建築技能実習の為の図面作成などの能力を身に付ける。

■試験方法

試験は行わない。

■成績評価基準

提出作品70%、受講姿勢30%にて評価

■受講生へのメッセージ

図面と実物の関係がつかめるまでは不可解な印象を持つことがあるが、じっくりとやることである日突然目の前の図面が立ち上がってくることを楽しみに。

| 科目名： 建築計画Ⅰ | 【講義】 |
|---|---|
| 英文名： Architectural Planning and Design Ⅰ | |
| 担当者： | 蒲田祐子<br>本科目は、建築計画への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築というものは人間のための空間であり、その空間を創造するには「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければならない。また、建築空間は、「機能性」「安全性」「社会性」を含めた総合的造形物として創造していくものである。この講義では、建築計画の概略［総論］から、身近な住宅を例に計画の基本的な考え方を身につけ、建築計画の意義と必要な基礎知識を養う。

第 １ 回 ： 計画概要･･･建築空間・人間のための空間・科学と芸術（時代、人、種類）・「強、用、美」

第 ２ 回 ： 建築に与える影響と要素⑴･･･自然的要素について①

第 ３ 回 ： 建築に与える影響と要素⑵･･･自然的要素について②

第 ４ 回 ： 建築に与える影響と要素⑶･･･人為的要素について

第 ５ 回 ： 建築における計画⑴／建築計画の役割

第 ６ 回 ： 建築における計画⑵／構成とそのプロセス

第 ７ 回 ： 建築における計画⑶／与条件の整理とイメージの構築

第 ８ 回 ： 中間試験

第 ９ 回 ： 建築の美と構成⑴／機能と形態について

第 10 回 ： 建築の美と構成⑵／視覚と建築について

第 11 回 ： 住居施設の計画⑴／住様式と住宅の変化

第 12 回 ： 住居施設の計画⑵／設計の進め方

第 13 回 ： 住居施設⑴／独立住宅など

第 14 回 ： 住居施設⑵／集合住宅など

第 15 回 ： 住居施設⑶／バリアフリー等について

第 16 回 ： 建築計画Ⅰのまとめ、期末試験

■教科書

プリント、初学者の建築講座 建築計画（市ヶ谷出版社）

■参考文献

コンパクト建築設計資料集成（丸善）

■到達目標

建築物を実際に設計する際の基本的な知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。但し出席率が80%に満たない場合は原則として定期試験の受験資格が無い。

■成績評価基準

定期試験55%、中間試験25%、演習10%、受講姿勢10% を原則とする。

■受講生へのメッセージ

建築計画は,建築空間の設計の基本となるので、しっかり理解して下さい。
また、日常の生活・社会との関連を意識しながら学ぶように心がけて下さい。

| 科目名： 建築計画Ⅱ | 【講義】 |
|---|---|
| 英文名： Architectural Planning and Design Ⅱ | |
| 担当者： | 蒲田祐子<br>本科目は、建築計画への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が担当する。<br>理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築計画Ⅰで学んだ「総論」および住居施設の計画についての要点を振り返りながら、建築計画の「各論」から、学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設などの機能・用途をその実例と演習問題を交えつつ、「外部空間の計画」も含めた、具体的かつ、総合的な計画手法と基礎的な知識を養う。

第 1 回 ： 学校教育施設Ⅰ／幼稚園・保育所など

第 2 回 ： 学校教育施設Ⅱ／小学校・中学校など

第 3 回 ： 社会教育施設Ⅰ／図書館など

第 4 回 ： 社会教育施設Ⅱ／美術館など

第 5 回 ： 社会教育施設Ⅲ／コミュニティセンター・公民館など

第 6 回 ： 福祉・医療施設Ⅰ／高齢者施設・バリアフリーなど

第 7 回 ： 福祉・医療施設Ⅱ／診療所・病院など

第 8 回 ： 中間試験

第 9 回 ： 商業施設Ⅰ／事務所ビルなど

第 10 回 ： 商業施設Ⅱ／劇場・音楽ホールなど

第 11 回 ： 商業施設Ⅲ／①百貨店・スーパーマーケットなど

第 12 回 ： 商業施設Ⅲ／②レストラン・飲食店など

第 13 回 ： 商業施設Ⅳ／ホテル（旅館）・駐車場など

第 14 回 ： 外部空間の計画Ⅰ／外部空間の把握

第 15 回 ： 外部空間の計画Ⅱ／外部空間の計画手法

第 16 回 ： 建築計画Ⅱのまとめ、期末試験

■教科書
プリント、初学者の建築講座 建築計画（市ヶ谷出版社）

■参考文献
コンパクト建築設計資料集成（丸善）

■到達目標
建築物を実際に設計する際の基本的な知識を身に付ける。

■試験方法
定期試験を行う。但し出席率が80%に満たない場合は原則として定期試験の受験資格が無い。

■成績評価基準
定期試験55%、中間試験25%、演習10%、受講姿勢10% を原則とする。

■受講生へのメッセージ
建築計画は、建築空間の設計の基本となるので、しっかり理解して下さい。
また、日常の生活・社会との関連を意識しながら学ぶように心がけて下さい。

| 科目名： 建築史Ⅰ | 【講義】 |
|---|---|
| 英文名： Architectural History Ⅰ | |
| 担当者： | 西田貫人<br>本科目は、建築史への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを西洋建築・日本建築を通じて行う。

第 1 回 ： 建築の始原…そもそも建築とは何かを問い、建築の発生について考える

第 2 回 ： エジプト・オリエント建築…西洋文明の源泉の建築を通じて建築の象徴性・意味性を中心に考える

第 3 回 ： ギリシア・ローマ建築…古典主義建築の基礎の理解、ギリシア・ローマ建築の空間比較

第 4 回 ： 初期キリスト教・ビザンチン建築…二つのキリスト教建築の空間比較

第 5 回 ： ロマネスク・ゴシック建築…非古典主義系建築の空間と西洋におけるその位置

第 6 回 ： ルネサンス建築･･･古典主義建築を言語としてとらえ、様式の意味と設計者の心情について考える

第 7 回 ： 古典主義建築…西洋建築の主流である古典主義建築について整理し、近代建築との関連を考える

第 8 回 ： 西洋建築まとめ・中間試験

第 9 回 ： 日本建築の特質･･･西洋建築との比較から日本建築の特質について考える

第 10 回 ： 神社建築･･･「神社」の発生を考えることから、建築の意味について考える

第 11 回 ： 寺院建築①･･･中国からの移入建築である寺院建築が日本建築の形成に与えたものを考える

第 12 回 ： 住宅建築①…住宅建築を中心に日本に発生した空間観を考える　間面記法、室礼、半間仕切

第 13 回 ： 寺院建築②…鎌倉期に移入された新建築の日本建築の意義を考える

第 14 回 ： 住宅建築②･･･書院造り・数寄屋造りを通じて、日本における様式について考える

第 15 回 ： 日本建築の空間…付加と分割、日本思想と空間、日本建築と近代建築

第 16 回 ： 定期試験・日本建築史まとめ・全講義ふりかえり

■教科書

コンパクト版　建築史【日本・西洋】（彰国社）

■参考文献

図説建築の歴史（学芸出版社）、ヨーロッパ建築史（昭和堂）、日本建築史（昭和堂）

■到達目標

①西洋および日本建築史の各時代の建築的特質を説明できる。②歴史を学び、現在を考え、未来を展望する意義を具体的に

■試験方法

定期試験をおこなう。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%

■受講生へのメッセージ

本講は単なる建築の歴史の暗記ではなく、今日の建築・インテリア設計に役立つものとして学ぶ姿勢が大切です。
出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

| 科目名： 建築史Ⅱ | 【講義】 |
|---|---|

| 英文名： | Architectural History Ⅱ |
|---|---|

| 担当者： | 西田貫人<br>本科目は、建築史への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |
|---|---|

| 開講年次： １年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを近代建築を通じて行う。

第 1 回 ： 近代建築とは…そもそも近代とは何か、近代建築の建築史的意義について

第 2 回 ： 産業革命と都市問題…産業革命が建築と都市に与えた影響について

第 3 回 ： 新芸術運動とその展開…アーツ・アンド・クラフツ、ドイツ工作連盟等について

第 4 回 ： 近代前衛芸術運動と建築…イタリア未来派、ドイツ表現主義、ロシア構成主義、デ･スティール等について

第 5 回 ： モダニズム建築の完成と流布…バウハウスとグロピウス、インターナショナルスタイルについて

第 6 回 ： ライトとアメリカ近代建築の動向…アメリカの近代建築とライトの建築について

第 7 回 ： ル・コルビュジェとミース…ル・コルビジェ、ミース・ファン・デル・ローエについて

第 8 回 ： 近代建築の流れの総括・中間試験

第 9 回 ： 日本近代建築史のとらえ方…日本における近代と近代建築の意味について

第 10 回 ： 西洋建築の移入と様式建築の展開…西洋建築が日本にいかに移入・受容されたかについて

第 11 回 ： 日本のモダニズム建築成立までの動向と展開…日本におけるモダニズム建築の特徴について

第 12 回 ： 戦後の日本建築界の動向…戦後復興期の日本近代建築の特徴と意義について

第 13 回 ： 第二次世界大戦後のモダニズム建築の動向‥戦後の欧米における建築とその思想について

第 14 回 ： ポストモダニズム建築とそれ以後･･･ポストモダニズム建築の特徴とモダニズム批判の根拠について

第 15 回 ： 現代建築の動向･･･日本および世界のの現代建築家の思想と作品

第 16 回 ： 定期試験・日本近代建築史まとめ

■教科書

コンパクト版　建築史【日本・西洋】（彰国社）

■参考文献

図説建築の歴史（学芸出版社）、ヨーロッパ建築史（昭和堂）、日本建築史（昭和堂）

■到達目標

①西洋および日本近代建築の建築的特質を説明できる。②歴史を学び、現在を考え、未来を展望する意義を具体的に説明て

■試験方法

定期試験をおこなう。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%

■受講生へのメッセージ

本講は単なる建築の歴史の暗記ではなく、今日の建築・インテリア設計に役立つものとして学ぶ姿勢が大切です。
出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

| 科目名： 建築法規Ⅰ | 【講義】 |
|---|---|
| 英文名： Building Regulation Ⅰ | |
| 担当者： | 武田能通<br>本科目は、建築法令への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。

第 1 回 ： 科目ガイダンス、建築法令概説…なぜ建築法令が必要か、建築法令の歴史、建築基準法の構成　読み方

第 2 回 ： 用語の定義1…建築の定義、建築物の定義

第 3 回 ： 用語の定義2…敷地の定義、敷地の面積

第 4 回 ： 用語の定義3…居室の定義、天井の高さ、床高さ

第 5 回 ： 用語の定義4…居室の採光

第 6 回 ： 用語の定義5…建築面積、床面積

第 7 回 ： 用語の定義6…建築物の高さ、軒高、建築物の階段

第 8 回 ： 用語の定義7・中間試験各法令のまとめと全講義のふりかえり

第 9 回 ： 用語の定義8…主要構造部、構造耐力上主要な部分、耐火建築物、準耐火建築物、不燃材料、防火構造

第 10 回 ： 用語の定義9…その他

第 11 回 ： 単体規定1…木造の規定

第 12 回 ： 単体規定2…木造耐力壁の算定

第 13 回 ： 単体規定3…鉄筋コンクリート造の規定

第 14 回 ： 単体規定4…鉄骨造の規定

第 15 回 ： 単体規定5…補強ＣＢ造の規定

第 16 回 ： 単体規定6…その他の規定、　前期まとめ、　定期試験

■教科書

基本建築関係法令集［法令編］（井上書院）

■参考文献

建築法規用教材（日本建築学会編）

■到達目標

建築計画上欠かせない主要な建築法規と、建築実務に必要な基本的法令用語を理解するとともに、運用する力を身に付ける

■試験方法

中間試験と定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

建築法令は、建築という実体を伴うものを文章のみの法令で規制しているため、文言が理解し辛いという面がある。その点を補うためにプリントを多数用意しており、法令とプリントとの関連に注意すること。建築法令は暗記する必要はなし。法令集の必要なページを開き、要点が理解出来ておれば充分。授業支援システムを用い、授業概要による予習と振り返り問題による復習を強く薦める。

| 科目名： 建築法規Ⅱ | 【講義】 |
|---|---|

| 英文名： | Building Regulation Ⅱ |
|---|---|

| 担当者： | 左海晃志<br>本科目は、建築法令への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |
|---|---|

| 開講年次： １年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。

第 １ 回 ： 集団規定1…道路の定義、道路の役割、接道義務道路内建築制限、４２条第２項道路の扱い

第 ２ 回 ： 集団規定2…都市計画区域、市街化区域と市街化調整区域

第 ３ 回 ： 集団規定3…用途地域全１２種の名称と違い

第 ４ 回 ： 集団規定4…建ペイ率（建築面積の敷地面積に対する割合）

第 ５ 回 ： 集団規定5…容積率（延べ床面積の敷地面積に対する割合）

第 ６ 回 ： 集団規定6…高さの制限その1　道路斜線

第 ７ 回 ： 集団規定7…高さの制限その2　隣地斜線、北側斜線

第 ８ 回 ： 集団規定8・中間試験…各法令のまとめと全講義のふりかえり

第 ９ 回 ： 集団規定9…建ペイ率・容積率・高さの制限について大演習と解説

第 10 回 ： 集団規定10…法22条区域、防火地域、準防火地域

第 11 回 ： 建築士法1…建築士の業務について

第 12 回 ： 建築士法2…建築士の業務について

第 13 回 ： 建築士法3…建築士の倫理観等について

第 14 回 ： 確認申請について…確認申請とは、確認申請と建築物

第 15 回 ： 関係法令1…建設業法、宅建業法等

第 16 回 ： 関係法令2…各法の概要、特定建築物、特定施設、その他、定期試験

■教科書

コンパクト[井上]建築関係法令集（井上書院）

■参考文献

特になし。

■到達目標

建築設計、施工に必要な法律の基礎知識を身につける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

建築法令は、建築という実態を伴うものを文章のみの法令で規制しているため、文言が理解し辛いという面がある。その点を補うためにプリントを多数用意しており、法令とプリントとの関連に注意すること。建築法令は暗記する必要はなし。法令集の必要なページを開き、要点が理解出来ておれば充分。

| 科目名： 建築一般構造Ⅰ | 【講義】 |
|---|---|

| 英文名： | Building Construction Ⅰ |
|---|---|

| 担当者： | 菅野勝友 |
|---|---|
| | 本科目は、建築一般構造への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

この科目は建築を学ぶ上での基礎的な科目であり、できるだけ多くの建築用語を知り、その内容の理解を目指す。最初は「建築物とは」から入り、地盤の基礎知識を学び、次に木構造の構成方法（在来工法）を学び、後の設計や施工に必要な知識を習得する。また、地球環境面から解体や建設廃棄物の問題についても考える。

第 1 回 ： ガイダンス及び概説…建築物の性能と構成

第 2 回 ： 構造方式の種類…ラーメン構造とトラス構造

第 3 回 ： 荷重と外力（1）…建築物に影響する力（地震力、風圧力等）

第 4 回 ： 荷重と外力（2）…構造計画に関わる用語について

第 5 回 ： 地盤について…地盤の分類と特徴

第 6 回 ： 地盤調査…標準貫入試験と土質試験

第 7 回 ： 基礎と杭（1）…支持杭と摩擦杭、打込杭と埋込杭

第 8 回 ： 基礎と杭（2）…場所打ち杭の種類と工法

第 9 回 ： 基礎と杭（3）…その他の杭（木杭等）・中間試験

第 10 回 ： 木構造（1）…木材について

第 11 回 ： 木構造（2）…木構造の基礎と軸組

第 12 回 ： 木構造（3）…筋違とその配置について

第 13 回 ： 木構造（4）…屋根勾配と和小屋組について

第 14 回 ： 木構造（5）…洋小屋組みについて

第 15 回 ： 木構造（6）…床組について

第 16 回 ： 木構造のまとめ・期末試験

■教科書

建築構法第Ⅲ版（市ヶ谷出版）

■参考文献

建築大辞典（彰国社）

■到達目標

建築を学ぶうえでの入門的な知識を身に付ける。（設計や施工等の領域を問わない知識）

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験50%、中間試験30%、小演習・受講姿勢20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

本科目は建築のしくみを学ぶ基礎科目です、確実に習得しましょう。

| 科目名： 建築一般構造Ⅱ | 【講義】 |
|---|---|

| 英文名： | Building Construction Ⅱ |
|---|---|

| 担当者： | 菅野勝友 |
|---|---|
| | 本科目は、建築一般構造への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

この科目では鉄骨構造と鉄筋コンクリート構造と補強コンクリート構造について学ぶ。今日の建築の多くはこれらの構造で造られており、その仕組みや特性についてよく理解し、その知識を血肉とすることは建築人として必須である。近年、良い建築を長く使いたいという社会的な要求が高まっており、新しい知見も取り入れながら講義を進める。

第 1 回 ： 鉄骨造（1）…鋼材の特徴と規格について

第 2 回 ： 鉄骨造（2）…鋼材の種類と形鋼

第 3 回 ： 鉄骨造（3）…鉄骨構造の構造形式

第 4 回 ： 鉄骨造（4）…各部材（柱・はり等について）

第 5 回 ： 鉄骨造（5）…溶接について

第 6 回 ： 鉄骨造（6）…高力ボルト接合

第 7 回 ： 鉄骨造（7）…継手と仕口

第 8 回 ： 鉄骨構造のまとめ・中間試験

第 9 回 ： 鉄筋コンクリート構造（1）…鉄筋コンクリート造の特徴と構造原理

第 10 回 ： 鉄筋コンクリート構造（2）…材料と配筋原理

第 11 回 ： 鉄筋コンクリート構造（3）…継手と定着、あき寸法

第 12 回 ： 鉄筋コンクリート構造（4）…各部材1（柱・梁）

第 13 回 ： 鉄筋コンクリート構造（5）…各部材2（スラブ・壁）

第 14 回 ： 壁式構造…制限等の構造基準について

第 15 回 ： 補強コンクリートブロック造…コンクリートブロックの種類と制限について

第 16 回 ： 鉄筋コンクリート構造のまとめ・期末試験

■教科書

建築構法第Ⅲ版（市ヶ谷出版）

■参考文献

建築大辞典（彰国社）

■到達目標

建築を学ぶうえでの入門的な知識を身に付ける。（設計や施工等の領域を問わない知識）

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験50%、中間試験30%、小演習・受講姿勢20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

本科目は建築のしくみを学ぶ基礎科目です、確実に習得しましょう。

| 科目名： 構造力学Ⅰ | 【講義】 |
|---|---|
| 英文名： Structural Mechanics Ⅰ | |
| 担当者： | 宗林功<br>本科目は、構造力学への造詣が深く構造設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築の一分野に「構造設計」がある。それは、建築物を支えている骨組の設計や地震等に対して安全かどうかの検討を行うものである。構造力学Ⅰではその構造設計に到達するまでの前段階、つまり建築物に作用する力とは何か、またカをどのように扱うかという基礎理論から、静定構造物の解析方法までを学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。

第 1 回 ： 建築物に働く力･･･建築物の骨組、力学と構造設計の関係、建築物に働く力について

第 2 回 ： 力の基本･･･力の合成と分解、力のモーメント

第 3 回 ： 構造物のモデル化･･･構造物の種類、支点と節点、荷重および外力の種類、構造物をモデル化すること

第 4 回 ： 反力1･･･力のつりあいと反力、反力計算の方法

第 5 回 ： 反力2･･･静定構造物（単純梁・片持梁）の支点に生じる反力について、解説と演習

第 6 回 ： 反力3･･･静定構造物（ラーメン・トラス）の支点に生じる反力について、解説と演習

第 7 回 ： 静定構造物の解析1･･･構造物に生ずる力の種類、力の表し方、求め方

第 8 回 ： 静定構造物の解析2･･･各種の荷重が作用する単純梁の応力解析について、解説と演習

第 9 回 ： 静定構造物の解析3･･･各種の荷重が作用する片持梁の応力解析について、解説と演習、中間試験

第 10 回 ： 静定構造物の解析4･･･静定ラーメン（単純梁系、片持梁）の応力解析について、解説と演習

第 11 回 ： 静定構造物の解析5･･･3ヒンジラーメンやゲルバー梁の応力解析について、解説と演習

第 12 回 ： 静定構造物の解析6･･･静定梁、静定ラーメンの応力解析まとめ

第 13 回 ： 静定構造物の解析7･･･静定トラスとは、静定トラスの各部材に生じる力

第 14 回 ： 静定構造物の解析8･･･節点法による静定トラスの応力解析について、解説と演習

第 15 回 ： 静定構造物の解析9･･･切断法による静定トラスの応力解析について、解説と演習

第 16 回 ： 静定構造物の構造力学についてまとめ、期末試験

■教科書

初めての建築構造力学（学芸出版社）

■参考文献

特になし。

■到達目標

安全な建築物を設計するための基礎知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

定期試験６０%、中間試験２０%、小演習２０%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

毎回、関数電卓を忘れずに持参すること。
計算そのものは簡単な数式だが、基礎からの積み上げが必要な内容なので確実に出席するようにして下さい。

# 科目名： 構造力学Ⅱ 【講義】

英文名： Structural Mechanics Ⅱ

| | |
|---|---|
| 担当者： | 宗林功<br>本科目は、構造力学への造詣が深く構造設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開講年次： １年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |

■授業概要

構造力学Ⅱでは材料力学や断面形状による力学的性質の違いを理解し、構造力学Ⅰで学んだ内容を基に、静定構造物の応力解析から各部材の許容応力度設計までを理解する。さらに後半では、簡単な不静定構造物を例にして、その解析方法の基本を学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。

第 １ 回 ： 構造力学Ⅰの復習･･･静定構造物の反力計算から応力解析についてのまとめ

第 ２ 回 ： 材料力学１･･･応力と応力度、応力度の種類、ひずみ度、ポアソン比とは

第 ３ 回 ： 材料力学２･･･弾性体の性質、弾性と塑性、応力度-ひずみ度曲線とヤング係数

第 ４ 回 ： 材料力学３･･･材料強度、許容応力度と安全率、材料力学まとめ及び演習課題

第 ５ 回 ： 断面の性質１･･･断面１次モーメントと図心、断面２次モーメントの求め方とその意味

第 ６ 回 ： 断面の性質２･･･断面係数、断面２次半径、断面の主軸

第 ７ 回 ： 断面の性質３･･･断面の性質まとめ及び演習課題

第 ８ 回 ： 部材の設計１･･･引張材の設計について解説と演習、引張応力度、有効断面積

第 ９ 回 ： 部材の設計２･･･曲げ材の設計について解説と演習１、曲げ応力度、せん断応力度

第 10 回 ： 部材の設計３･･･曲げ材の設計について解説と演習２、 中間試験

第 11 回 ： 部材の設計４･･･圧縮材の設計について解説と演習１、圧縮応力度、オイラーの長柱公式

第 12 回 ： 梁の変形･･･単純梁や片持梁のたわみとたわみ角、モールの定理について解説と演習

第 13 回 ： 不静定構造物の解析１･･･不静定梁の解析と演習、不静定力とは

第 14 回 ： 不静定構造物の解析２･･･不静定ラーメンの応力（たわみ角法、固定モーメント法）、解説と演習

第 15 回 ： 不静定構造物の解析３･･･不静定ラーメンの応力（D値法、その他略算法）

第 16 回 ： 不静定構造物の解析４･･･不静定構造物の解析まとめ、期末試験

■教科書

初めての建築構造力学（学芸出版社）

■参考文献

特になし。

■到達目標

安全な建築物を設計するための基礎知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

定期試験６０%、中間試験２０%、小演習２０%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

毎回、関数電卓を忘れずに持参すること。
計算そのものは簡単な数式だが、基礎からの積み上げが必要な内容なので確実に出席するようにして下さい。

| 科目名： 情報処理論 | 【講義／演習】 |
|---|---|

| 英文名： | Information Processing |
|---|---|

| 担当者： | 齊木勝代、 小林さくら<br>本科目は、情報処理への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |
|---|---|

| 開講年次： １年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築技術者でも、ITリテラシーは必修条件となっている近年、建築業界においても例外ではなくコンピュータ化が進んでいる。情報処理の基礎として、誰もがパソコンを触れることが大切である。また最近では、アプリケーション等の利用も進んでいることより使用法等についても学ぶ。

第 1 回 ： 初回ガイダンス…授業の位置づけ、評価方法、コンピュータについて（ハード面等での説明）等

第 2 回 ： ワープロソフトによる演習1

第 3 回 ： ワープロソフトによる演習2

第 4 回 ： ワープロソフトによる演習3

第 5 回 ： まとめと演習課題

第 6 回 ： 表計算ソフトによる演習1

第 7 回 ： 表計算ソフトによる演習2

第 8 回 ： 表計算ソフトによる演習3

第 9 回 ： まとめと演習課題

第 10 回 ： 画像処理ソフト（GIMP）の利用

第 11 回 ： 3D-CGソフト（SketchUp）の利用1

第 12 回 ： 3D-CGソフト（SketchUp）の利用2

第 13 回 ： PowerPointによるプレゼンテーション技法1…PowerPointとは

第 14 回 ： PowerPointによるプレゼンテーション技法2…PowerPointによる演習1

第 15 回 ： PowerPointによるプレゼンテーション技法3…PowerPointによる演習2

第 16 回 ： プレゼンテーション発表会、講評

■教科書
プリント

■参考文献
特になし。

■到達目標
設計施工からステークホルダーに対するプレゼンテーションに至るまで必要不可欠なスキルを身に付ける。

■試験方法
定期試験はおこなわない。

■成績評価基準
受講姿勢65%、課題演習35%

■受講生へのメッセージ

コンピュータは便利な機械であり、また難しい面もあるが、使用についての基本を学んでほしい。

| 科目名： 建築施工法Ⅰ | 【講義】 |
|---|---|

| 英文名： | Construction Method Ⅰ |
|---|---|

| 担当者： | 緒方幸樹 |
|---|---|
| | 本科目は、工事現場への造詣が深く、又現場管理及び設計監理実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： １年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築施工とは、工事契約に基づいて各種建築図面や仕様書に従って工事を行い、建築物を完成させることを言います。
この建築施工法Ⅰの講義では、建築施工における基本的な用語や施工方法などを系統的に学習し、建築技術者として最低限知っておくべき施工知識を学びます。また、２年次の施工法を学ぶ上での土台となるべき知識や能力を身に付けることを目的とします。

第 １ 回 ： 建築施工の意義、講義の位置づけ

第 ２ 回 ： 施工計画（１）･･･施工計画にあたり注意すべき事項、各種工程表について

第 ３ 回 ： 施工計画（２）･･･各種工程表の特色と理解

第 ４ 回 ： 地盤調査･･･地盤調査と各種試験法

第 ５ 回 ： 仮説工事･･･足場や仮囲い、材料の保管

第 ６ 回 ： 土工事･･･山止め、地盤現象とその原因

第 ７ 回 ： 地業、基礎工事･･･各地業、杭の種類と特徴

第 ８ 回 ： 鉄骨工事･･･鉄骨構造の工事計画、材料や加工・接合方法など

第 ９ 回 ： 鉄筋コンクリート工事･･･型枠工事、鉄筋工事、コンクリート工事

第 10 回 ： 中間試験･･･仮設計画及び鉄筋コンクリート工事のまとめ

第 11 回 ： 木工事･･･木質構造の特徴と種類、工事計画、材料や加工

第 12 回 ： 補強コンクリートブロック工事･･･補強コンクリートブロックを使用した工法や特色、材料について

第 13 回 ： 防水工事・屋根工事･･･防水工事の各種工法や特徴。屋根葺き材料ごとの工法や特徴

第 14 回 ： 左官工事･･･各種下地と仕上げ材料による工法や特徴

第 15 回 ： タイル、張り石工事、建具、内装工事･･･タイル、張り石工事の工法や特徴、建具、内装工事

第 16 回 ： 定期試験･･･仕上工事のまとめ

■教科書

建築施工法Ⅰ　講義用テキスト（本校作成テキスト）

■参考文献

特になし。

■到達目標

建築施工において必要な基礎知識を身につけます。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

基本的な施工用語や工法を知ることは技術者として当たり前のことです。頑張りましょう。

| 科目名： キャリアデザイン Ⅰ | | | 【講義】 |
|---|---|---|---|
| 英文名： Career Design Ⅰ | | | |
| 担当者： | クラス担任、伊藤賢一、善才雅夫、西村彩 | | |
| | 業界技術者、高等学校での教員職、採用コンサルタントの各職務経験を有する教員陣が担当する。 | | |
| 開講年次： １年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 特別 必修 | 単位数： ２単位 |

■授業概要

①業界における仕事力を高めるべく、業界の構成、仕組み、役割、仕事の内容、立ち位置などを知り、目指す方向性を見出すための知識を習得する。次に、実際の就職活動を想定した履歴書作成、面接対策等のトレーニングを重ねる。②就職活動のみならず社会人としても基礎学力の確実な養成は不可欠である。国語、数学を主とした中学校、高等学校レベルの基礎学力向上を図る。

第 1 回 ： ガイダンス／当授業科目の概要、目的、到達目標について、就職対策、基礎学力の双方から解説する。
第 2 回 ： 就職対策①／学生、アルバイトと社会人との違いについて。
第 3 回 ： 基礎学力①／漢字チェックテスト、計算チェックテストの実施。
第 4 回 ： 就職対策②／社会人として、組織人としての役割、責任、自覚。
第 5 回 ： 基礎学力②／国語・説明的文章：接続語、数学：正の数、負の数、式の計算
第 6 回 ： 就職対策③／業界を知る１。総合建設会社、ハウスメーカー
第 7 回 ： 基礎学力③／国語・説明的文章：指示語、数学：平方根
第 8 回 ： 就職対策④／業界を知る２。工務店、建築設計事務所、その他。
第 9 回 ： 基礎学力④／国語・説明的文章：文章内容読み取り、数学：1次方程式
第 10 回 ： 就職対策⑤／職種を知る１。設計職
第 11 回 ： 基礎学力⑤／国語・説明的文章：理由を捉える、数学：連立方程式
第 12 回 ： 就職対策⑥／職種を知る２。施工管理職
第 13 回 ： 基礎学力⑥／国語・説明的文章：筆者の主張を読み取る、数学：２次方程式
第 14 回 ： 就職対策⑦／職種を知る３。その他の職種（積算職、営業職、インテリアコーディネーター他）
第 15 回 ： 基礎学力⑦／国語・文学的文章：言葉を考える、数学：比例と反比例
第 16 回 ： 就職対策⑧／就職活動の流れ１。志望企業の選択から具体的な活動に至るまで。
第 17 回 ： 基礎学力⑧／国語・文学的文章：様子を考える、数学：１次関数
第 18 回 ： 就職対策⑨／就職活動の流れ２。大企業と中小企業、採用スケジュールの違い。
第 19 回 ： 基礎学力⑨／国語・文学的文章：心情の読み取り、数学：関数 $y=ax^2$
第 20 回 ： 就職対策⑩／求人票の見方１。会社データ、募集条件（社会保険）
第 21 回 ： 基礎学力⑩／国語・文学的文章：理由を捉える、数学：確率
第 22 回 ： 就職対策⑪／求人票の見方２。採用職種、募集条件（待遇）、選考方法
第 23 回 ： 基礎学力⑪／国語・文学的文章：表現の特徴を捉える、数学：平面図形
第 24 回 ： 就職対策⑫／選考方法を知る。書類選考、SPI試験、エントリーシート、面接
第 25 回 ： 基礎学力⑫／国語・古文：動作主を捉える、数学：空間図形
第 26 回 ： 就職対策⑬／履歴書を書く１。自己PRの作成
第 27 回 ： 基礎学力⑬／国語・古文：主題を読み取る、数学：三角形と四角形
第 28 回 ： 就職対策⑭／履歴書を書く２。志望動機の作成
第 29 回 ： 基礎学力⑭／国語・漢文、数学：円
第 30 回 ： 就職対策⑮／履歴書を書く３。全体構成の把握
第 31 回 ： 国語チェックテスト、数学チェックテスト
第 32 回 ： 履歴書完成　特定企業を想定した本作成

■教科書

プリント利用

■参考文献

授業の中で適時紹介します。

■到達目標

社会人意識醸成し、ビジネス基礎力を身に付ける。

■試験方法

履歴書の成果物、国語・数学のチェックテストを試験とします。

■成績評価基準

提出物20%、出席点80%で評価します。

■受講生へのメッセージ

本校の学びは社会、仕事に直結しています。目指す業界、職種に就くことを強く意識し、未来を見据えて取り組んでください。
合わせて、単なる就職対策としてではなく、社会人として最低限の基礎学力を身につけてください。

| 科目名： 設計製図Ⅱ | 【実習】 |
|---|---|
| 英文名： Architectural Plan, Design and Drawing Ⅱ | |
| 担当者： | 日野弘一、竹内優二<br>本科目は、建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

１年次での設計製図Ⅰや計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てることができるということを前提条件にして設計演習を行う。集合住宅、学校、図書館、博物館を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程を理解する。

第 1 回 ： 第1課題「コミュニティ施設」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理
第 2 回 ： 第1課題「コミュニティ施設」…建物与条件の整理と全体構想その1（エスキス）
第 3 回 ： 第1課題「コミュニティ施設」…建物与条件の整理と全体構想その2（エスキス）
第 4 回 ： 第1課題「コミュニティ施設」…模型作製
第 5 回 ： 第1課題「コミュニティ施設」…図面作製その１
第 6 回 ： 第1課題「コミュニティ施設」…図面作製その２
第 7 回 ： 第1課題「コミュニティ施設」…プレゼンテーション用図面作製その１
第 8 回 ： 第1課題「コミュニティ施設」…プレゼンテーション用図面作製その２
第 9 回 ： 第2課題「オフィスビル」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理
第 10 回 ： 第2課題「オフィスビル」…建物与条件の整理と全体構想その1（エスキス）
第 11 回 ： 第2課題「オフィスビル」…建物与条件の整理と全体構想その2（エスキス）
第 12 回 ： 第2課題「オフィスビル」…模型作製その１
第 13 回 ： 第2課題「オフィスビル」…模型作製その2
第 14 回 ： 第2課題「オフィスビル」…模型作製その3
第 15 回 ： 第2課題「オフィスビル」…図面作製その１
第 16 回 ： 第2課題「オフィスビル」…図面作製その2
第 17 回 ： 第2課題「オフィスビル」…プレゼンテーション用図面作製
第 18 回 ： 第3課題「図書館」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理
第 19 回 ： 第3課題「図書館」…建物与条件の整理と全体構想その1（エスキス）
第 20 回 ： 第3課題「図書館」…建物与条件の整理と全体構想その2（エスキス）
第 21 回 ： 第3課題「図書館」…模型作製
第 22 回 ： 第3課題「図書館」…図面作製その１
第 23 回 ： 第3課題「図書館」…図面作製その２
第 24 回 ： 第3課題「図書館」…プレゼンテーション用図面作製その１
第 25 回 ： 第3課題「図書館」…プレゼンテーション用図面作製その２
第 26 回 ： 第4課題「美術館」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理
第 27 回 ： 第4課題「美術館」…建物与条件の整理と全体構想その１（エスキス）
第 28 回 ： 第4課題「美術館」…建物与条件の整理と全体構想その2（エスキス）
第 29 回 ： 第4課題「美術館」…計画まとめ
第 30 回 ： 第5課題「ビジネスホテルとの複合施設」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理
第 31 回 ： 第5課題「ビジネスホテルとの複合施設」…建物与条件の整理と全体構想その１（エスキス）
第 32 回 ： 第5課題「ビジネスホテルとの複合施設」…建物与条件の整理と全体構想その2（エスキス）、計画まとめ

■教科書

■参考文献

建築設計資料集成（丸善）

■到達目標

公共建築物の計画を通して建築設計、製図についての能力を身に付ける。

■試験方法

試験は行わない。

■成績評価基準

作品のクオリティーで評価する。

■受講生へのメッセージ

公共建築物の計画を通して建築の成り立ちを理解すると共に、図面や模型を通じて人に伝えることの大切さを知ってほしい。また、作品として完成できた時の喜びを是非味わってもらいたい。

# 科目名： 建築製図Ⅱ 【実習】

英文名： Architectural Drafting and the Development of its Skill Ⅱ

| | |
|---|---|
| 担当者： | 齊木勝代、日野弘一<br>本科目は、建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各タームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、課せられた諸条件のもとで鉄筋コンクリート構造の４階建事務所ビルの計画・設計を行い、建築一般図面や各詳細図、構造図の作図までを学ぶ。後期については、鉄骨造４階建て建築物の計画・設計を行い、一般図から構造図等の作図を行う。同時に、真剣に設計作業や図面と向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力などを養成する。

第 １ 回 ： 第７ターム「建築設計製図課題①」･･･ＲＣ造の計画と設計・製図（作図）手法について
第 ２ 回 ： 第７ターム「建築設計製図課題②」･･･ＲＣ造の事務所ビル　平面図、断面図、立面図　その１
第 ３ 回 ： 第７ターム「建築設計製図課題③」･･･ＲＣ造の事務所ビル　平面図、断面図、立面図　その２
第 ４ 回 ： 第７ターム「建築設計製図課題④」･･･ＲＣ造の事務所ビル　平面図、断面図、立面図　その３
第 ５ 回 ： 第８ターム「建築設計製図課題①」･･･ＲＣ造の事務所ビル　納まりの設計演習　その１（内部詳細）
第 ６ 回 ： 第８ターム「建築設計製図課題②」･･･ＲＣ造の事務所ビル　納まりの設計演習　その２（内部詳細）
第 ７ 回 ： 第８ターム「建築設計製図課題③」･･･ＲＣ造の事務所ビル　矩計図詳細図　その１
第 ８ 回 ： 第８ターム「建築設計製図課題④」･･･ＲＣ造の事務所ビル　矩計図詳細図　その２
第 ９ 回 ： 第９ターム「建築設計製図課題①」･･･ＲＣ造の事務所ビル　平面詳細図　その１
第 10 回 ： 第９ターム「建築設計製図課題②」･･･ＲＣ造の事務所ビル　平面詳細図　その２
第 11 回 ： 第９ターム「建築設計製図課題③」･･･ＲＣ造の事務所ビル　階段詳細図１
第 12 回 ： 第９ターム「建築設計製図課題④」･･･ＲＣ造の事務所ビル　階段詳細図２
第 13 回 ： 前期補習作業・前期製図試験「傾向と対策」
第 14 回 ： 前期製図試験　その１
第 15 回 ： 前期製図試験　その２
第 16 回 ： 夏期ターム「建築設計製図課題演習①」･･･夏期課題：集合住宅（ＲＣ造）
第 17 回 ： 課題提出、前期試験講評
第 18 回 ： 第10ターム「建築設計製図課題①」･･･ＲＣ造の事務所ビル　構造計画と構造図１
第 19 回 ： 第10ターム「建築設計製図課題②」･･･ＲＣ造の事務所ビル　構造計画と構造図２
第 20 回 ： 第11ターム「建築設計製図課題①」･･･共同住宅の計画と設計・製図（作図）手法について
第 21 回 ： 第11ターム「建築設計製図課題②」･･･共同住宅　床伏図　その１
第 22 回 ： 第11ターム「建築設計製図課題③」･･･共同住宅　床伏図　その２
第 23 回 ： 第11ターム「建築設計製図課題④」･･･共同住宅　軸組図　その１
第 24 回 ： 第11ターム「建築設計製図課題⑤」･･･共同住宅　軸組図　その２
第 25 回 ： 第12ターム「建築設計製図課題①」･･･共同住宅　詳細図　その１
第 26 回 ： 第12ターム「建築設計製図課題②」･･･共同住宅　詳細図　その２
第 27 回 ： 第12ターム「建築設計製図課題③」･･･共同住宅　詳細図　その３
第 28 回 ： 第13ターム「建築設計製図課題①」･･･共同住宅　矩計図詳細図　その１
第 29 回 ： 第13ターム「建築設計製図課題②」･･･共同住宅　矩計図詳細図　その２
第 30 回 ： 春期ターム「建築設計製図課題演習②」･･･春期課題：公共建築物
第 31 回 ： 後期補習作業・前期製図試験「傾向と対策」
第 32 回 ： 後期製図試験

■教科書

なし（プリント配布）

■参考文献

建築構法（市ヶ谷出版）、必携 建築資料（ビジュアルハンドブック）（実教出版）

■到達目標

建築設計施工における鉄筋コンクリート造、鉄骨造の設計製図能力を身につける。

■試験方法

定期試験（実技）を行う。

■成績評価基準

定期製図試験60%、通常課題(夏･春課題含)25%、平常点(出席状況等)15%を原則とする。

■受講生へのメッセージ

・前期・後期とも、出席率が80%未満の者は原則として定期試験の受験資格が無い。
・病欠や忌引きのとき、または不慮の事故等の際は必ずすみやかに担当者まで連絡し、指示を受けて下さい。

| 科目名： 建築技能実習Ⅳ | 【実習】 |
|---|---|
| 英文名： Skill Training of Workman Ⅳ | |
| 担当者： | 荒井圭一郎<br>本科目は、建築設計実務（大工技能）を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になるものである。実際その技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では本物の現場技能者から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。（実務業務に即したカリキュラム構成）

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ大工技能を基に、さらにバラエティーに富んだ実務作業を校内実習はもとより地域社会に根ざした現場実習や学外実習を通して建築技能者としてのグローバルな人材育成を学ぶ。

第 1 回 ： 科目ガイダンス…学科進行に関する説明。実技実習、成績評価、施設の説明
第 2 回 ： 規矩術１…さしがねを使った墨付け、刻み作業①
第 3 回 ： 規矩術４…さしがねを使った墨付け、刻み作業④
第 4 回 ： 学外実習…木造建築見学：白川郷・飛騨高山他(1泊2日)
第 5 回 ： 棟上実習１…軸組実習の準備。板図作成。
第 6 回 ： 棟上実習４…軸組実習の準備。土台墨付け・刻み作業②
第 7 回 ： 棟上実習７…軸組実習の準備。土台墨付け・刻み作業⑤
第 8 回 ： 棟上実習１０…軸組実習の準備。土台廻り仮組み・調整①
第 9 回 ： 学外実習…過去の学生作品で大阪府の公園等で使われている作品を見学(卒業制作への意識付け)
第 10 回 ： 棟上実習１４…軸組実習の準備。2階梁墨付け・刻み作業②
第 11 回 ： 棟上実習１７…軸組実習の準備。3階梁墨付け・刻み作業⑤
第 12 回 ： 棟上実習20…軸組実習の準備。2階梁廻り仮組み・調整①
第 13 回 ： 技能検定１…技能テスト。技能課題作成①。
第 14 回 ： 棟上実習２３…軸組実習の準備。小屋組廻り墨付け・刻み作業①
第 15 回 ： 棟上実習２６…軸組実習の準備。小屋組廻り墨付け・刻み作業④
第 16 回 ： 棟上実習２９…軸組実習の準備。小屋組仮組み･調整①
第 17 回 ： 棟上実習３１…軸組み建方・棟上①
第 18 回 ： 実習製作１…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 19 回 ： 実習製作４…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 20 回 ： 実習製作７…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 21 回 ： 実習製作１０…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 22 回 ： 実習製作１３…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 23 回 ： 実習製作１６…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 24 回 ： 実習製作１９…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 25 回 ： 実施工作１…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 26 回 ： 実施工作４…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 27 回 ： 実施工作７…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 28 回 ： 技能検定2…技能テスト。技能課題作成②
第 29 回 ： 合同製作作業１…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 30 回 ： 合同製作作業４…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 31 回 ： 合同製作作業７…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 32 回 ： ２年次総括…作品公表会・総括。技能総括・見学他

■教科書

大工技術を学ぶⅠ、すぐに役立つ建築の規矩術

■参考文献

特になし

■到達目標

現役の大工技術者(1級建築大工技能士)から実践的な作業指導を受けると共に、その技術能力を身に付ける。

■試験方法

後期期末試験において２級建築大工技能士の学科試験程度の問題を実施

■成績評価基準

通常課題評価60%、技能検定評価20%、作業姿勢20%

■受講生へのメッセージ

良い建築は良い技能者がいて初めて良い作品に仕上がります。
ぜひ、自分に秘められた技能の才能を磨き出して下さい。

| 科目名： 建築技能実習Ⅴ | 【実習】 |
|---|---|

| 英文名： | Skill Training of Workman Ⅴ |
|---|---|

| 担当者： | 荒井圭一郎<br>本科目は、建築設計実務（大工技能）を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |
|---|---|

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になるものである。実際その技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では本物の現場技能者から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。（実務業務に即したカリキュラム構成）

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ大工技能を基に、さらにバラエティーに富んだ実務作業を校内実習はもとより地域社会に根ざした現場実習や学外実習を通して建築技能者としてのグローバルな人材育成を学ぶ。

第 1 回 ： 多能工とは…大工技能以外の建築技能職について。建築空間、人、技、鍛錬、実務進行
第 2 回 ： 規矩術３…さしがねを使った墨付け、刻み作業②
第 3 回 ： 規矩術５…さしがねを使った墨付け、刻み作業⑤
第 4 回 ： 学外実習…木造建築見学：白川郷・飛騨高山他(1泊2日)
第 5 回 ： 棟上演習２…軸組実習の準備。間竿作成。
第 6 回 ： 棟上演習５…軸組実習の準備。土台墨付け③
第 7 回 ： 棟上演習８…軸組実習の準備。土台刻み作業⑥
第 8 回 ： 棟上演習１１…軸組実習の準備。土台廻り仮組み・調整②
第 9 回 ： 学外実習…過去の学生作品で大阪府の公園等で使われている作品を見学(卒業制作への意識付け)
第 10 回 ： 棟上演習15…軸組実習の準備。2階梁墨付け・刻み作業③
第 11 回 ： 棟上演習１８…軸組実習の準備。2階梁墨付け・刻み作業⑥
第 12 回 ： 棟上演習21…軸組実習の準備。2階梁廻り仮組み・調整②
第 13 回 ： 技能検定１…技能テスト。技能課題作成①。
第 14 回 ： 棟上実習２４…軸組の組立作業。小屋組廻り墨付け・刻み作業②
第 15 回 ： 棟上実習２７…軸組の組立作業。小屋組廻り墨付け・刻み作業⑤
第 16 回 ： 棟上実習３０…軸組の組立作業。小屋組仮組み･調整②
第 17 回 ： 棟上実習３２…軸組み建方・棟上②
第 18 回 ： 実習製作２…各ゼミ作業(大工、内装、建具、左官など)
第 19 回 ： 実習製作５…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 20 回 ： 実習製作８…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 21 回 ： 実習製作１１…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 22 回 ： 実習製作１４…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 23 回 ： 実習製作１７…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 24 回 ： 実習製作２０…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 25 回 ： 実施工作２…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 26 回 ： 実施工作５…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 27 回 ： 実施工作８…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 28 回 ： 技能検定2…技能テスト。技能課題作成②
第 29 回 ： 合同製作作業２…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 30 回 ： 合同製作作業５…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 31 回 ： 合同製作作業８…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 32 回 ： ２年次総括…作品公表会・総括。技能総括・見学他

■教科書

大工技術を学ぶⅠ、すぐに役立つ建築の規矩術

■参考文献

特になし

■到達目標

現役の大工技術者(1級建築大工技能士)から実践的な作業指導を受けると共に、その技術能力を身に付ける。

■試験方法

後期期末試験において２級建築大工技能士の学科試験程度の問題を実施

■成績評価基準

通常課題評価60%、技能検定評価20%、作業姿勢20%

■受講生へのメッセージ

良い建築は良い技能者がいて初めて良い作品に仕上がります。
ぜひ、自分に秘められた技能の才能を磨き出して下さい。

| 科目名： 建築技能実習Ⅵ | 【実習】 |
|---|---|
| 英文名： Skill Training of Workman Ⅵ | |
| 担当者： | 荒井圭一郎、日野弘一、菅野勝友<br>本科目は、建築設計実務（大工技能）を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 専門 必修 | 単位数： ４単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になるものである。実際その技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では本物の現場技能者から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。（実務業務に即したカリキュラム構成）

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ大工技能を基に、さらにバラエティーに富んだ実務作業を校内実習はもとより地域社会に根ざした現場実習や学外実習を通して建築技能者としてのグローバルな人材育成を学ぶ。

第 1 回 ： 各種建築材料…木材以外の材料。建築材料について
第 2 回 ： 規矩術３…さしがねを使った墨付け、刻み作業③
第 3 回 ： 規矩術６…さしがねを使った墨付け、刻み作業⑥
第 4 回 ： 学外実習…木造建築見学：白川郷・飛騨高山他(1泊2日)
第 5 回 ： 棟上演習３…軸組実習の準備。土台墨付け作業①
第 6 回 ： 棟上演習６…軸組実習の準備。土台墨付け作業④
第 7 回 ： 棟上演習９…軸組実習の準備。土台刻み作業⑦
第 8 回 ： 棟上演習１２…軸組実習の準備。土台廻り仮組み・調整③
第 9 回 ： 棟上演習１３…軸組実習の準備。2階梁墨付け・刻み作業①
第 10 回 ： 棟上演習１６…軸組実習の準備。2階梁墨付け・刻み作業④
第 11 回 ： 棟上演習１９…軸組実習の準備。2階梁墨付け・刻み作業⑦
第 12 回 ： 棟上演習２２…軸組実習の準備。2階梁廻り仮組み・調整③
第 13 回 ： 技能検定１…技能テスト採点・講評
第 14 回 ： 棟上実習２５…軸組の組立作業。小屋組廻り墨付け・刻み作業③
第 15 回 ： 棟上実習２８…軸組の組立作業。小屋組廻り墨付け・刻み作業⑥
第 16 回 ： 棟上実習３１…軸組の組立作業。小屋組仮組み･調整③
第 17 回 ： 棟上実習３３…軸組み建方・棟上③
第 18 回 ： 実習製作３…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 19 回 ： 実習製作６…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 20 回 ： 実習製作９…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 21 回 ： 実習製作１２…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 22 回 ： 実習製作１５…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 23 回 ： 実習製作１８…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 24 回 ： 実習製作２１…各ゼミ作業（大工、内装、建具、左官など）
第 25 回 ： 実施工作３…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 26 回 ： 実施工作６…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 27 回 ： 実施工作９…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 28 回 ： 技能検定2…技能テスト採点・講評。
第 29 回 ： 合同製作作業３…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 30 回 ： 合同製作作業６…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 31 回 ： 合同製作作業９…技能演習（教わった技能で実際にモノつくり）
第 32 回 ： ２年次総括…作品公表会・総括。技能総括・見学他

■教科書

大工技術を学ぶⅠ、すぐに役立つ建築の規矩術

■参考文献

特になし

■到達目標

現役の大工技術者(1級建築大工技能士)から実践的な作業指導を受けると共に、その技術能力を身に付ける。

■試験方法

後期期末試験において２級建築大工技能士の学科試験程度の問題を実施

■成績評価基準

通常課題評価60%、技能検定評価20%、作業姿勢20%

■受講生へのメッセージ

良い建築は良い技能者がいて初めて良い作品に仕上がります。
ぜひ、自分に秘められた技能の才能を磨き出して下さい。

| 科目名： CAD設計製図Ⅰ | 【実習】 |
|---|---|
| 英文名： Computer Aided Design Ⅰ | |
| 担当者： | 齊木勝代、永田薫<br>本科目は、CADへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 専門 選択 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

近年、建築業界のあらゆる分野でコンピュータ化が進んでおり、設計関係においてＣＡＤは一般的な道具となっているのが現状である。
従って、CAD設計製図は建築技術者として身に付けておくべき必須技術の１つでもある。
本科目では基本練習により２次元ＣＡＤの基本操作を習得した後に、さまざまな条件が課せられた建築物の計画・設計、さらにその建築図面の作成まで一連の作業を課題を通して学んでゆく。

第 １ 回 ： 講義概要、ＣＡＤ概説…この授業でなにをするのか、ＣＡＤ仕組み、利用法について学ぶ。

第 ２ 回 ： 第１課題-1…基本操作の練習1

第 ３ 回 ： 第１課題-2…基本操作の練習2

第 ４ 回 ： 第２課題-1…応用操作の練習1　第1課題よりのステップアップした機能の習得

第 ５ 回 ： 第２課題-2…応用操作の練習2

第 ６ 回 ： 第３課題-1…４階建て集合住宅（ＲＣ造）　ガイダンス、建築条件の読み込み、建築計画

第 ７ 回 ： 第３課題-2…４階建て集合住宅（ＲＣ造）　集合住宅の設計演習１

第 ８ 回 ： 第３課題-3…４階建て集合住宅（ＲＣ造）　集合住宅の設計演習２、計画のチェックと講評

第 ９ 回 ： 第４課題-1…４階建て集合住宅（ＲＣ造）　平面図の作図要領、作図演習１

第 10 回 ： 第４課題-2…４階建て集合住宅（ＲＣ造）　平面図の作図要領、作図演習２

第 11 回 ： 第５課題-1…４階建て集合住宅（ＲＣ造）　断面図の作図要領、作図演習１

第 12 回 ： 第５課題-2…４階建て集合住宅（ＲＣ造）　断面図の作図要領、作図演習２

第 13 回 ： 第６課題-1…４階建て集合住宅（ＲＣ造）　立面図の作図要領、作図演習１

第 14 回 ： 第６課題-2…４階建て集合住宅（ＲＣ造）　立面図の作図要領、作図演習２

第 15 回 ： 第７課題-1…習熟度テスト　　ガイダンス、２階建て住宅（ＲＣ造）の設計から製図までを行う

第 16 回 ： 第７課題-2…習熟度テスト　　演習作業（設計、製図）

■教科書

プリントによる。

■参考文献

特になし。

■到達目標

建築実務等に必要なＣＡＤの基本操作を身につけます。

■試験方法

定期試験は行わない。

■成績評価基準

習熟度テスト及び、各課題の演習課題により総合評価とする。

■受講生へのメッセージ

現在では、ＣＡＤが使えることが建築業界では必修条件となりつつあり、操作そのものについては簡単であるが、毎回の実習での成果が大切である。

| 科目名： CAD設計製図Ⅱ | 【実習】 |
|---|---|
| 英文名： Computer Aided Design Ⅱ | |
| 担当者： | 齊木勝代、永田薫<br>本科目は、CADへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 専門 選択 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

近年、建築業界のあらゆる分野でコンピュータ化が進んでおり、設計関係においてＣＡＤは一般的な道具となっているのが現状である。
従って、CAD設計製図は建築技術者として身に付けておくべき必須技術の１つでもある。
本科目ではCAD設計製図Ⅰの内容を受けてＣＡＤを利用して事務所ビルの計画・設計から建築図面の作成まで一連の作業を課題を通して学んでゆく。さらに構造や構法の違いによるディテールや図面表現の違いやプレゼンテーションへの展開も学ぶ。

第 １ 回 ： 第１課題 …ＣＡＤの基本操作の復習、４階建て事務所ビルの計画と設計 設計演習１

第 ２ 回 ： 第２課題-1…４階建て事務所ビルの計画と設計 設計演習2

第 ３ 回 ： 第２課題-2…計画のチェックと講評、一般図の作成１

第 ４ 回 ： 第２課題-3…事務所ビルの一般図の作成２

第 ５ 回 ： 第３課題 …日影図の作成 第2課題で作成した図面を使用し、法規制の確認

第 ６ 回 ： 第４課題-1…構造図の作成練習1 ＲＣ構造について1 伏図、軸組み図

第 ７ 回 ： 第４課題-2…構造図の作成練習2 ＲＣ構造について2 配筋図

第 ８ 回 ： 第４課題-3…構造図の作成練習3 ＲＣ構造について3 架構詳細図

第 ９ 回 ： 第５課題-1…構造図の作成練習1 Ｓ造について1 伏図、軸組み図

第 10 回 ： 第５課題-2…構造図の作成練習2 Ｓ造について2 架構詳細図

第 11 回 ： 第５課題-3…構造図の作成練習3 Ｓ造について3 伏図、軸組み図

第 12 回 ： 第６課題 …第2課題を利用したパースの作成

第 13 回 ： 第７課題-1 …パースおよび平面図等への着色技法1

第 14 回 ： 第７課題-2 …パースおよび平面図等への着色技法2

第 15 回 ： 第８課題-1 …公共建築物の設計製図課題１

第 16 回 ： 第８課題-2 …公共建築物の設計製図課題２、他のＣＡＤへのデータの受け渡しについて、習熟度テスト

■教科書
プリントによる。

■参考文献
特になし。

■到達目標
建築ＣＡＤによる設計製図を、基本操作から建築図面作成までの能力を身に付ける。

■試験方法
定期試験は行わない。

■成績評価基準
習熟度テスト及び、各課題の演習課題により総合評価とする。

■受講生へのメッセージ

現在では、ＣＡＤが使えることが建築業界では必修条件となりつつあり、操作そのものについては簡単であるが、毎回の実習での成果が大切である。

# 科目名： 建築環境工学 【講義】

英文名： Architectural Environment Engineering

| | |
|---|---|
| 担当者： | 佐々木一恵<br>本科目は、建築環境工学への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開講年次： ２年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |

■授業概要

この授業では、望ましい室内環境を形成するための知識を得て、さらに地球環境と省エネルギーについての理解を目標としている。環境についての議論は、今や「地球の存続」という命題になりつつあり、全世界で排出される二酸化炭素の1/3が建築関連業であるともいわれ、その削減に対して我々が果たす役割は日々大きくなっていると言える。「建築環境工学」という科目は、従来の建築のあり方を見直し、今後の方法を模索してゆく基礎を築くものであると考えている。

第 １ 回 ： 日照・日射環境１･･･太陽の運行・位置、日照の確保、日影曲線を用いた日照条件

第 ２ 回 ： 日照・日射環境２･･･日射、直達日射と天空日射、方位による日射特性、日射の調節

第 ３ 回 ： 光環境１･･･測光量、照明計算の基礎、明視条件・グレアとは、照度の基準について

第 ４ 回 ： 光環境2･･･全天空照度と昼光率、採光計画、照明計画と照明計算

第 ５ 回 ： 色彩環境１･･･色の属性、各表色系の紹介、色の対比

第 ６ 回 ： 色彩環境２･･･色彩の効果と色彩計画

第 ７ 回 ： 空気環境１･･･換気の目的、汚染物質の許容濃度と必要換気量、シックハウス対策について

第 ８ 回 ： 空気環境２･･･自然換気の力学、機械換気方式の種類と換気計画、 8回までのまとめ・中間試験

第 ９ 回 ： 熱環境１･･･熱貫流の概念、熱伝導と熱伝達、中空層の効果、熱貫流率と日射

第 10 回 ： 熱環境２･･･建築全体の熱特性、住宅の省エネルギー基準

第 11 回 ： 湿気環境１･･･湿度の表し方、湿り空気と露点温度、空気線図の利用方法

第 12 回 ： 湿気環境２･･･結露現象とは、表面結露とその防止対策、内部結露とその防止対策

第 13 回 ： 温熱環境１･･･温熱環境の６要素と環境温度

第 14 回 ： 温熱環境２･･･快適さの条件、温熱環境指標について

第 15 回 ： 音環境･･･音の性質、周波数、騒音レベル、騒音評価と遮音効果、室内音響計画

第 16 回 ： 定期試験・9回から15回のまとめ・全講義の振り返り

■教科書

初学者の建築講座　建築環境工学（市ヶ谷出版社）

■参考文献

特になし

■到達目標

光、熱、空気、音など、建築環境に関する考え方と基本的な知識を身につけることをめざす。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

定期試験６０%、中間試験２０%、小演習２０%にて評価する

■受講生へのメッセージ

ヒートアイランドや地球温暖化対策としての建築のあり方にも感心がもたれており、建築においても環境分野はますます重要な領域となっています。建築計画を行う上でいかに環境工学が生かされているかを理解していきましょう。
出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

| 科目名： 建築設備 | 【講義】 |
|---|---|
| 英文名： Building Eqipment | |
| 担当者： | 村上弘典<br>本科目は、建築設備への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

人間の生活に不可欠な空気、水、電気について学ぶ。主として木造住宅やマンション等の集合住宅や事務所ビルを対象として、快適な居住環境を創造するための諸設備（空気調和設備、給排水・衛生設備、電気・ガス設備等）について学習する。また、建築設計と設備計画との関連についても言及する。

第 １ 回 ： 建築設備の概要…自然環境と人工環境、建築計画と設備計画について

第 ２ 回 ： 空気調和設備の概要…空気の性質、空気調和と室内環境、空気調和の目的について

第 ３ 回 ： 空調負荷の考え方…空気線図の使い方、冷房負荷、暖房負荷について

第 ４ 回 ： 空気調和設備の方式…熱源方式ならびに空調方式の種類と特徴について

第 ５ 回 ： 空気調和設備の計画…空調設備の計画と考え方、設備設計の参考資料と設備設計図面について

第 ６ 回 ： 熱搬送設備と機器部材…ダクト・室内ユニット、吹出口・吸込口等について

第 ７ 回 ： 換気・排煙設備…換気・排煙設備の目的、必要換気量と換気回数、換気方法について

第 ８ 回 ： 中間試験・8回までのまとめ、ならびに給排水・衛生設備の概要…給排水・衛生設備の役割と構成について

第 ９ 回 ： 給水・給湯設備1…給水方式、使用水量と給水圧力、給湯方式、配管材料について

第 10 回 ： 給水・給湯設備2…給水方式、使用水量と給水圧力、給湯方式、配管材料について

第 11 回 ： 排水・通気設備1…排水・通気設備の目的、排水配管、トラップ、雨水排水、配管材料について

第 12 回 ： 排水・通気設備2…排水・通気設備の目的、排水配管、トラップ、雨水排水、配管材料について

第 13 回 ： 排水処理設備・衛生器具…浄化槽、雨水･排水再利用、衛生器具の概要、給水器具・設備ユニットのついて

第 14 回 ： 消火設備…消火設備の概要、屋内・屋外消火栓、スプリンクラ設備等について

第 15 回 ： 電気設備1…電気設備の役割と構成、受変電・幹線設備、照明・コンセント設備等について

第 16 回 ： 定期試験・全講義の振り返り

■教科書

初学者の建築講座　建築設備（初版第２刷）（市ヶ谷出版）　プリント

■参考文献

空気調和設備の実務の知識（オーム社）　給排水・衛生設備の実務の知識（オーム社）

■到達目標

空気調和、給排水、電気など設備分野に関する考え方と基本的な知識を身につけることをめざす。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

天井裏や壁の中あるいは床下に隠れてしまう建築設備は、現代生活においては不可欠な存在となっている。建築設備の役割を理解し、最新設備にも関心を持ち続ける姿勢が大切です。
出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

| 科目名： 建築材料学Ⅰ | 【講義】 |
|---|---|
| 英文名： Building Materials Ⅰ | |
| 担当者： | 松本司<br>本科目は、建築材料への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

この科目は、まず前半に日本の代表的・伝統的建築材料である木材について学び、後半に現代建築における主要な建築材料であるコンクリートについて学ぶ。この二つを学ぶことにより建築材料による建築の歴史及び可能性を学ぶ。

第 1 回 ： JIS･JAS等の国家規格と建築材料…建築材料のガイダンスとして種々にの材料から規格について学ぶ

第 2 回 ： 建築材料概説（建築材料の歴史）…人類が最初に手にした材料は自然材料、道具の発明、加工の技術等

第 3 回 ： 木材の概説…林業白書から現代の木材事情等を学ぶ

第 4 回 ： 木材の種類及び分類、性質…主な樹種から木材の特徴を学ぶ

第 5 回 ： 木材（製材品）…柱や梁材の形状や寸法等を学ぶ

第 6 回 ： 木材とその加工品…木材の加工品について学ぶ。同時に木材接着剤の有害性の有無につても理解する

第 7 回 ： 塗料、仕上げ材料…木部の保護、仕上げ材としての塗料について学ぶ

第 8 回 ： 石灰・石膏製品…石灰・石膏製品には左官材料や工場製品等を学ぶ

第 9 回 ： 中間試験・木材を中心に8回までのまとめ

第 10 回 ： セメント（歴史・種類）…各種セメントの特徴について

第 11 回 ： セメント（性質等）…セメントが水と化学反応して新たな硬化体を造る事について

第 12 回 ： コンクリート（材料等）…コンクリートが人造石であること、基本的性質

第 13 回 ： コンクリート（調合・諸性質等）…良いコンクリートを作るための性質の理解

第 14 回 ： コンクリート（強度・水セメント比）…コンクリートの強度とセメント比の関係等

第 15 回 ： コンクリート（調合の表し方）…コンクリートをつくる時の水・骨材等の割合を決める調合設計について学ぶ

第 16 回 ： 定期試験・10回から15回のまとめ・全講義の振り返り

■教科書

建築材料第4版（市ヶ谷出版社）

■参考文献

やさしい建築材料（学芸出版社）、初めての建築材料（学芸出版社）

■到達目標

各種の建築材料の種類や性質等の知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

この科目は2年次科目です。建築材料学Ⅰもしくは Ⅱ を必ず単位取得して下さい。

# 科目名： 建築材料学Ⅱ 【講義】

英文名： Building Materials Ⅱ

| | |
|---|---|
| 担当者： | 松本司<br>本科目は、建築材料への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築材料Ⅰの続きとしてここでは出来るだけ多くの材料を取り上げていく。まずは金属製品、特に構造用鋼材の形鋼や棒鋼について学び次にアルミサッシ等その特徴を知る。次に仕上げ材を分類別にガラス、セラミックス、石材と学び、機能材料などを学んだ後、リフォームについて学び材料の使い方について考える。

第 1 回 ： 金属製品…鋼材や鉄筋コンクリート用棒鋼の形やJIS記号を学ぶ

第 2 回 ： 金属材料（鉄鋼）…製鉄のあらましを学ぶ

第 3 回 ： 金属材料（鉄鋼）…鋼（スチール）をつくる方法を学ぶ

第 4 回 ： 鋼材の性質等…鋼の強さを他の材料との比較で知る

第 5 回 ： 鋼材の性質等…炭素含有量による鋼の性質の変化等

第 6 回 ： 鋼以外の鉄、鋼の合金①…ステンレス・スチール等、その他の鉄の仲間について学ぶ

第 7 回 ： ガラス…ガラスの歴史や板ガラスの製法・諸性質、各種ガラスについて学ぶ

第 8 回 ： セラミックス…粘土を主成分とした建築用セラミックス(タイル、瓦等)について学ぶ

第 9 回 ： 中間試験・金属(鉄鋼)を中心に8回までのまとめ

第 10 回 ： 石材（その1）…張り材としての石材の一般的な特性について学ぶ

第 11 回 ： 石材（その２）…花崗岩・大理石等主な石材について学ぶ

第 12 回 ： プラスチックス、接着剤…プラスチックスの長所・短所,接着剤の用途,問題点(シックハウス症候群)について学

第 13 回 ： 機能材料…機能材料としての防耐火・断熱・音響材料について学ぶ

第 14 回 ： インテリア材料…内装材(カーペット、畳、壁紙等)について学ぶ

第 15 回 ： リフォーム…リフォームの必要性、要点について学ぶ

第 16 回 ： 定期試験・10回から15回のまとめ・全講義の振り返り

■教科書

建築材料第4版（市ヶ谷出版社）

■参考文献

やさしい建築材料（学芸出版社）、初めての建築材料（学芸出版社）

■到達目標

各種の建築材料の種類や性質等の知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

この科目は2年次科目です。建築材料学Ⅰもしくは Ⅱを必ず単位取得して下さい。

| 科目名： 建築施工法Ⅱ | 【講義】 |
|---|---|

| 英文名： | Construction Method Ⅱ |
|---|---|

| 担当者： | 奥大輔<br>本科目は、建築施工法への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |
|---|---|

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 前期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

１年次で学んだ建築施工法Ⅰを基にして、建築材料学、一般構造、法規、構造力学等の知識を統合し、深く施工技術を学ぶ教科である。最近では現場での改善･改良がすすみ新工法が数多く考察されているが、この教科では、将来、経験や知識を積み重ねていくために必要な施工知識を得ようとする姿勢を得ることを目標とする。

第 １ 回 ： 建築施工の概要…建築物の企画、施工業者の選定等

第 ２ 回 ： 施工計画…工程管理、地盤調査(各種試験)等

第 ３ 回 ： 仮設工事…仮設物の種類、共通・直接仮設工事、工事用電気・給排水、工事用機械

第 ４ 回 ： 土工事・山留め工事…土工事の種類、山留め工法、山留めの設計、各種地盤現象

第 ５ 回 ： 地業工事…地業工事の種類、杭について、地盤改良工事

第 ６ 回 ： 鉄筋工事①…鉄筋工事について

第 ７ 回 ： 鉄筋工事②…配筋の方法、定着と継手等

第 ８ 回 ： 鉄筋工事③…鉄筋の加工と組立、配筋検査等

第 ９ 回 ： 中間試験（施工の概要・施工計画・仮設・土・地業・鉄筋工事のふりかえり）

第 10 回 ： 型枠工事…型枠の設計、型枠の加工と組立

第 11 回 ： コンクリート工事①…コンクリートの品質と種類①

第 12 回 ： コンクリート工事②…コンクリートの品質と種類②　コンクリートの運搬と打込み

第 13 回 ： 鉄骨工事①…鉄骨工事の計画、工作等

第 14 回 ： 鉄骨工事②…鋼材の接合、工事現場施工、鉄骨関連工事

第 15 回 ： 環境保護…環境負荷（環境負荷の低減方法）、総まとめ

第 16 回 ： 定期試験（型枠・コンクリート・鉄骨工事　環境保護のふりかえり）

■教科書

建築施工テキスト（井上書院）

■参考文献

特になし。

■到達目標

1年次で学んだ施工法Ⅰを基にして、より深く建築施工の知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

受講姿勢並びに定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

学ぶ場は学校だけでなく、日常の生活の中にも建物は存在する。また建設現場もたくさんあるので、学生自身の身のまわりにも興味を持って観察してほしい。

| 科目名： 建築積算 | 【講義】 |
|---|---|
| 英文名： Estimation | |
| 担当者： | 猪田紗加<br>本科目は、建築積算への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。 |

| 開講年次： ２年次 | 開講期： 後期 | 科目区分： 基幹 | 単位数： ２単位 |
|---|---|---|---|

■授業概要

建築物の実現は予算の確立がなければ不可能であり、実社会でもコストに対する重要性が認識され、その関心も高まっている。建築における積算の位置づけを考察しつつ、実際の建築工事にかかわる設計図書から工事費等を予測する積算の技術を修得する。

第 1 回 ： 積算の概要…積算の意義、種類、工事費の構成、積算方式等について

第 2 回 ： 土工・地業の積算…土工の数量、地業の数量の積算について

第 3 回 ： 鉄筋コンクリート造の積算①…基礎、柱、梁のコンクリート数量の積算について

第 4 回 ： 鉄筋コンクリート造の積算②…床版、壁、階段、その他のコンクリート数量の積算について

第 5 回 ： 鉄筋コンクリート造の積算③…上記①の鉄筋の数量の積算について①

第 6 回 ： 鉄筋コンクリート造の積算④…上記①の鉄筋の数量の積算について②

第 7 回 ： 鉄筋コンクリート造の積算⑤…上記①の型枠の数量の積算について

第 8 回 ： 中間試験（積算概要・土工・地業・鉄筋・型枠・コンクリートのふりかえり）

第 9 回 ： 鉄骨造の積算①…積算の区分と順序について

第 10 回 ： 鉄骨造の積算②…鉄骨、鋼材の積算について

第 11 回 ： 鉄骨造の積算③…ボルト、溶接の積算について

第 12 回 ： 木造の積算①…木工事の積算について①

第 13 回 ： 木造の積算②…木工事の積算について②

第 14 回 ： 仕上げ工事①…各仕上げ工事（屋根、左官、塗装、金属工事）の数量について

第 15 回 ： 仕上げ工事②…各仕上げ工事（建具、ガラス、タイル、その他内装工事）の数量について

第 16 回 ： 定期試験（鉄骨造・木造・各仕上げのふりかえり）

■教科書

初めての建築積算（学芸出版社）

■参考文献

特になし

■到達目標

建築積算に必要な数量、金額を算出する能力を身につけます。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

受講姿勢並びに定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

積算基準に沿って、毎回小演習を実施しつつ基本的な積算技術を学ぶので、欠席しないように。

| 科目名： キャリアデザイン Ⅱ | | | 【講義】 |
|---|---|---|---|
| 英文名： Career Design Ⅱ | | | |
| 担当者： | クラス担任、伊藤賢一、善才雅夫 | | |
| | 業界技術者、高等学校での教員職、採用コンサルタントの各職務経験を有する教員陣が担当する。 | | |
| 開講年次： ２年次 | 開講期： 通年 | 科目区分： 特別 必修 | 単位数： ２単位 |

■授業概要

１年次に続き就職活動対策、社会人としての基礎学力習得を目的としたトレーニングを重ねることに加え、社会人マナーや常識など働く上での基本となる考え方、知識、所作を習得。具体的には、就職対策では面接（個人、集団）、グループディスカッション、プレゼンテーション、論作文、SPIへの対応方法を学び、基礎学力では１年次の国語、数学に加え、英語、理科にまで分野を広げる。

第 1 回 ： 就職対策①／履歴書の精度向上。作成した履歴書の添削結果をもとに改善すべき点を抽出しこれを共有する。
第 2 回 ： 基礎学力①／英語：英単語（名詞）、数学：１次方程式、不等式、国語：同音異句１
第 3 回 ： 就職対策②／SPI。その内容、企業がこれを利用する意図、対策を学ぶ。
第 4 回 ： 基礎学力②／英語：英単語（複数形）、数学：数列（虫食い算）、国語：同音異句２
第 5 回 ： 就職対策③／エントリーシート。その内容、企業がこれを利用する意図、対策を学ぶ。
第 6 回 ： 基礎学力③／国語・説明的文章：指示語、数学：平方根
第 7 回 ： 就職対策④／面接１。個人面接における対策。
第 8 回 ： 基礎学力④／理科：理科問題の公式、社会：日本地理、資源・観光・産業
第 9 回 ： 就職対策⑤／面接２。集団面接における対策。
第 10 回 ： 基礎学力⑤／英語：派生語、数学：数列、国語：同音異句３
第 11 回 ： 就職対策⑥／グループディスカッション。その内容、企業がこれを利用する意図、対策を学ぶ。
第 12 回 ： 基礎学力⑥／英語：動詞形の変化、数学：鶴亀算、国語：対義語１
第 13 回 ： 就職対策⑦／プレゼンテーション。就職活動におけるあり方を学ぶ。
第 14 回 ： 基礎学力⑦／理科：電気とエネルギー、社会：世界地理
第 15 回 ： 就職対策⑧／論作文。基礎学力パートで培った技量を駆使した実践。
第 16 回 ： ビジネス基礎／ビジネスマナー①：話し言葉（対同僚、先輩、上司、取引先）
第 17 回 ： ビジネス基礎／ビジネスマナー②：文書作成（体内部、取引先へのビジネス文書）
第 18 回 ： ビジネス基礎／ビジネスマナー③：電話対応（外線、内線、社内、取引先）
第 19 回 ： ビジネス基礎／ビジネスマナー④：メール（フォーマット、To・Cc・Bcc、文書作成のポイント）
第 20 回 ： ビジネス基礎／ビジネスマナー⑤：外部訪問、同行時の所作。
第 21 回 ： ビジネス基礎／ビジネスマナー⑥：メモのとり方（電話、会議、商談）
第 22 回 ： ビジネス基礎／会社組織：部署の役割、役職。
第 23 回 ： ビジネス基礎／産業界の構成：各業界大手企業・シェア、旧財閥。
第 24 回 ： ビジネス基礎／会議、打合せ①：その意図、意味、目的、所作。
第 25 回 ： ビジネス基礎／会議、打合せ②：実践ⅰ。グループディスカッション形式による実践。
第 26 回 ： ビジネス基礎／会議、打合せ③：実践ⅱ。グループディスカッション形式による実践。
第 27 回 ： ビジネス基礎／経理：売上、原価、粗利、利益とその内訳。算出方法。
第 28 回 ： ビジネス基礎／税と社会保険：各言葉の意味。
第 29 回 ： ビジネス基礎／企業データ：各言葉の意味。
第 30 回 ： ビジネス基礎／プレゼンテーション①：課された課題の要約、文書化、発表、各手法。
第 31 回 ： ビジネス基礎／プレゼンテーション②：実践ⅰ。過去の自分、今の自分、未来の自分を個々人が発表。
第 32 回 ： ビジネス基礎／プレゼンテーション③：実践ⅱ。過去の自分、今の自分、未来の自分を個々人が発表。

■教科書

プリント利用

■参考文献

授業の中で適時紹介します。

■到達目標

社会人意識醸成し、ビジネス基礎力を身に付ける。

■試験方法

授業への参加と成果物、チェックテストの内容で合否を判断します。

■成績評価基準

提出物２０%、出席点８０%で評価します。

■受講生へのメッセージ

本校の学びは社会、仕事に直結しています。目指す業界、職種に就くことを強く意識し、未来を見据えて取り組んでください。
合わせて、単なる就職対策としてではなく、社会人として最低限の基礎学力を身につけてください。